

活用編 もくじ

活用編 もくじ.....	1
はじめに	6

1章 使いはじめる前に.....9

1 Windowsセットアップが終了したら	10
2 「東芝サービスステーション」について.....	12
3 リカバリーメディアを作る －東芝リカバリーメディアクリエーター－	13

2章 本製品の基本操作を覚えよう.....17

1 電源を入れる／切る.....	18
1 電源を入れる	18
2 電源を切る	20
3 再起動	23
4 スリープ.....	24
5 休止状態.....	28
6 簡単に電源を切る／本製品の使用を中断する.....	28
2 SSD	29
3 microSDメモリカードを使う－SDカードスロットー....	30
1 使えるmicroSDメモリカードについて	30
2 カードのセットと取り出し	31

3章 インターネットやネットワークに接続する..... 35

- 1 LAN機能を使う 36**
 - 1** LAN接続はこんなに便利 36
- 2 無線LANを使う 37**
 - 1** 無線LAN機能をONにする 37
 - 2** 無線LANを設定する 39

4章 周辺機器を使って機能を広げよう 41

- 1 周辺機器を使う前に 42**
- 2 USB対応機器を使う 43**
 - 1** USB対応機器の取り付け／取りはずし 44
- 3 マイクやヘッドホンを使う 46**
 - 1** マイク入力／ヘッドホン出力端子 46
 - 2** マイクを使う 48
 - 3** ヘッドホンを使う 49
 - 4** マイク／ヘッドホンを選択する 51
- 4 Bluetooth® 機能を使う 52**

5章 USB Type-C™ アダプターの取り扱い 55

- 1 USB Type-C™ アダプターの各部の名称 56**
- 2 本製品の画面をテレビや外部ディスプレイに映す 57**
- 3 USB対応機器を使う 60**
- 4 有線LAN機能を使う 62**

6章 アプリケーション..... 65

- 1** 本製品の画面をテレビ／外部ディスプレイにワイヤレスで表示する 66
- 2** 省電力の設定をする 67
 - 1** eco ユーティリティ 67
- 3** アプリケーションをインストールする 69

7章 システム環境を設定する 71

- 1** パスワードセキュリティ 72
 - 1** ユーザーパスワード 74
 - 2** スーパーバイザーパスワード 85
 - 3** パスワードの入力 88
 - 4** HDDパスワード 90
- 2** 起動ドライブの変更 95
- 3** 東芝セッティング 96
- 4** BIOS セットアップを使う 97
 - 1** 起動と終了／BIOS セットアップの操作 98
 - 2** 設定項目 100
- 5** 指紋認証を使う 113
 - 1** 指紋認証とは 113
 - 2** Windows パスワードを設定する 113
 - 3** 指紋を登録する 114
 - 4** 指紋認証を行う 116
- 6** TPM を使う 118

8章 本製品の動作がおかしいときは..... 119

- 1 本製品を診断し、トラブルを解決する..... 120**
 - 1 本製品を診断する..... 120
 - 2 トラブルを解決する..... 121

- 2 Q&A集..... 122**
 - 1 システム/SSD..... 122
 - 2 TPM..... 122
 - 3 メッセージ..... 123
 - 4 その他..... 124

9章 本製品を再セットアップするには..... 127

- 1 本製品の調子がおかしいときは..... 128**

- 2 本製品を初期状態に戻す -リカバリー-..... 130**
 - 1 本製品を初期状態に戻す（リカバリー）流れ..... 131
 - 2 本製品を初期状態に戻す前にしておくこと..... 132
 - 3 いくつかある初期状態に戻す方法..... 134
 - 4 SSDから本製品を初期状態に戻す..... 134
 - 5 リカバリーメディアから本製品を初期状態に戻す..... 136
 - 6 本製品を初期状態に戻したあとは..... 138

1	お問い合わせ先 – OS／アプリケーション–	140
1	OSのお問い合わせ先.....	140
2	アプリケーションのお問い合わせ先.....	141
2	デイリーケアとアフターケア	143
3	お客様登録の手続き	148
1	東芝ID (TID) お客様登録のお願い.....	148
4	捨てるとき／人に譲るとき	150
5	ご使用にあたってのお願い	152
6	記録メディアについて	159
1	microSDメモ리카ードを使うにあたって.....	159
2	記録メディアの廃棄・譲渡について.....	160
7	メディア／SSDへの書き出し	161
8	USB Type-C™アダプターのインターフェースの仕様 ...	162
9	USB Type-C™アダプターの仕様	163
10	技術基準適合について	164
11	外形寸法図	170
12	無線LAN／Bluetooth®について	171
13	BIOSについて	180
14	リカバリーチェックシート	186

はじめに

本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 本書の記載について

- 記載内容には、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「****モデルの場合」や「****シリーズのみ」などのように注記します。
- 本書に記載の操作手順は、本製品にUSB Type-C™ アダプター（付属モデルのみ、または本製品に対応するアダプター）・ディスプレイ・キーボード・マウス（すべて市販品）を接続していることを前提としています。

参照 ▶ 接続方法『取扱説明書』

* ただし、すべてのディスプレイ・キーボード・マウスの動作を保証するものではありません。

参照 ▶ USB Type-C™ アダプターの詳細 [5章 USB Type-C™ アダプターの取り扱い]

- キーボードは、ファンクションキーが搭載されているものを用意してください。
- 本書に記載のキーの印字（例 **ENTER** キー）は一例です。お使いのキーボードによって、キーの印字は異なります。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体のSSDや付属のCD/DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について、表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。
- 本書に記載しているURLのホームページを参照する際は、お使いのブラウザのワン ボックス（URL入力欄）にURLを入力して、ホームページを表示してください。

2 プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使用されているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト (たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高1,000メートル (3,280フィート) 以上をお考えください。
- 目安として、気温5~30℃ (高所の場合25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。

これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常のプロテクト機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するように、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

本製品には64ビットプロセッサおよび64ビットOSが搭載されております。32ビットのデバイスドライバーやアプリケーションは動作しません。

3 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。

必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] ボタン () をクリックする
- ② [ はじめに] → [リリース情報] をクリックする

4 映像／音楽関連の機能を使用するにあたって

映像を扱うアプリケーションについて

映像を扱うアプリケーションの使用中に、スリープ／休止状態への移行を行わないようにしてください。

エラーメッセージが表示されたり、アプリケーションが終了したりする場合があります。

その場合は、使用したいアプリケーションを再度起動してください。

5 H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL 規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。(i) AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL 標準規格に従いビデオをエンコードすること（以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という）、(ii) 個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または／およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用／許諾に関する情報については、MPEG LAのHP (<http://www.mpegla.com>) より入手いただけます。

● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1 AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE <http://www.mpegla.com>

1 章

■ 使いはじめる前に

Windows セットアップ後に行うことや、リカバリーメディアの作成などについて説明します。

Windows セットアップが終了したら（Windows が使えるようになったら）、次のことを行ってください。


参照 ▶ Windows を使えるようにする『取扱説明書』

日付と時刻を確認する

日付と時刻は、[通知領域] などに表示されています。

正しく設定されていることを確認してください。

正しく設定されていない場合は、日付と時刻を設定し直してください。

日付と時刻の設定方法は、タスクバーの検索ボックス（）で、「日付と時刻の設定」と入力して検索してください。

リカバリーメディアを作成する

リカバリーDVD-ROM が付属していないモデルの場合、リカバリーメディアを作成しておくことを強くおすすめします。

リカバリーメディアとは、システムやアプリケーションをご購入時の状態に復元（リカバリー）するためのものです。

参照 ▶ リカバリーメディアについて「本章 **3** リカバリーメディアを作る」

なお、リカバリーメディアを使って実際にリカバリーを行うときは、操作の流れをよくご確認ください。

参照 ▶ リカバリーについて「9章 本製品を再セットアップするには」

Windows を最新の状態にする

インターネットに接続して、「Windows Update」で更新プログラムをインストールしてください。

「Windows Update」については、タスクバーの検索ボックス（）で、「Windows Update」と入力して検索してください。

定期的にバックアップをとる

作成したファイルを誤って削除してしまったり、突然の本製品のトラブルによって保存したファイルが使えなくなってしまうことがあります。

このような場合に備えて、あらかじめファイルを microSD メモリカードや USB フラッシュメモリなどの記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。

一度なくしたデータを復旧することはできません。

万が一のために、必ず定期的にバックアップをとりましょう。

ドメイン参加について

* Windows 10 Pro 搭載モデルのみ

企業内など、ある1つにまとめたネットワークをドメインと呼びます。

Windows 10 Proの場合のみ、ドメインに参加できます。

ドメインのユーザー名やパスワードなどの詳しい設定方法は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Windows でわからない操作があったとき

Windowsの使いかたについて調べるには、「Cortana」^{コルタナ}を使用してください。

タスクバーの検索ボックスに、調べたい機能に関する文字列を入力して検索できます。

検索ボックスが表示されていない場合は、 をクリックしてください。検索ボックスが表示されます。

Windows について

Windowsの最新情報は次のホームページから確認できます。

URL : <http://www.microsoft.com/>

「東芝サービスステーション」(TOSHIBA Service Station) は、ソフトウェアのアップデートや重要なお知らせを自動的に提供するためのソフトウェアです。以降の説明をお読みのうえ、「東芝サービスステーション」を使用して、本製品を最新の状態に保つことを強くおすすめします。このソフトウェアは本製品の識別情報などを当社のサーバーへ送信します。



メモ

- 「東芝サービスステーション」を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 「東芝サービスステーション」は、本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバやBIOSのうち、一部についてアップデートをお知らせします。東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」の「よくある質問 (FAQ)」やウイルス・セキュリティ情報と「Microsoft Update」などをあわせてご利用ください。

インストールについて


「東芝サービスステーション」は、購入時の状態ではインストールされていないので、ご使用の際はあらかじめインストールしてください。

参照 ▶ インストール方法「6章 3 アプリケーションをインストールする」

「東芝サービスステーションのご利用にあたって」画面が表示された場合は、内容をよく確認のうえ、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをクリックしてください。

起動方法

「東芝サービスステーション」を起動する方法は次のとおりです。

- 1 [スタート] ボタン () をクリックする
- 2 [TOSHIBA] → [サービスステーション] をクリックする
「東芝サービスステーション」が起動します。

ソフトウェアにアップデートがある場合や、本製品に対する当社からのお知らせがある場合に、メッセージが表示されます。

また、本製品のハードウェアの状態を診断する「診断ツール」や、本製品に発生する問題を特定し、解決することを支援する「トラブルシューティング」の機能があります。

参照 ▶ 診断ツール、トラブルシューティング「8章 1 本製品を診断し、トラブルを解決する」

*** 東芝リカバリーメディアクリエイター搭載モデルのみ**

本製品にトラブルが発生したときに、本製品を購入時の状態（初期状態）に戻すことを「リカバリー」といいます。

参照 ▶ リカバリーの詳細「9章 本製品を再セットアップするには」

本製品のSSDには、システムやアプリケーションを購入時の状態に戻すためのリカバリーツールが搭載されています。

しかし、トラブルの原因によっては肝心のリカバリーツールを起動できないおそれもあります。

このような場合に備え、リカバリーDVD-ROMが付属していない場合は、あらかじめリカバリーツールをDVDなどの記録メディアにコピーしておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。

SSDからリカバリーができない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーができます。

リカバリーメディアの作成は、「東芝リカバリーメディアクリエイター」で行います。

作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。

 **メモ**

- リカバリーメディアを作成しておらず、SSDからもリカバリーが行えない場合は、修理が必要になることがあります。
東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

■ リカバリーを行うと

リカバリーを行うと、SSD内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻ります。つまり何も設定していない状態になります。

また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

1 リカバリーメディアに使用できる記録メディア

「東芝リカバリーメディアクリエーター」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USB フラッシュメモリ*¹
- 記録用のブルーレイディスクメディア*^{1*2}
(BD-R、BD-R DL、BD-RE、BD-RE DL)
- 記録用のDVDメディア*^{1*2}
(DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW)

*1 USBハブ（市販品）で、USBフラッシュメモリまたは外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続してください。ただし、すべてのUSBハブでの動作を保証するものではありません。USBハブは、USBコネクタに接続してください（USBハブは、USB Type-C™アダプターのUSBコネクタに接続しないでください）。

*2 外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続すると、DVD／ブルーレイディスクを使用できます。ただし、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

必要な記録メディアの枚数や容量は「東芝リカバリーメディアクリエーター」画面に表示されます。

DVD／ブルーレイディスクの場合は、必要な枚数が表示されます。複数枚使用するときには、同じ規格の記録メディアで統一してください。

USBフラッシュメモリの場合は、リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量が表示されます。表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- 「東芝リカバリーメディアクリエーター」ではDVD-RAM、BD-R XL（3層）、BD-RE XL（3層）を使用できません。
- 「東芝リカバリーメディアクリエーター」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。
また、電源コードとACアダプターを使用して本製品を電源コンセントに接続した状態で作成してください。本製品の省電力機能が働かないようにしてください。電源OFF／スリープ／休止状態／再起動を実行しないでください。
- その他の注意事項については、あらかじめ、次の項目を確認してください。

参照 ▶ メディアへ書き込むときのご注意「付録 **7** メディア／SSDへの書き出し」

参照 ▶ USB対応機器の使用上のご注意「付録 **5** - **4** - USB対応機器の操作にあたって」

2 インストールについて

「東芝リカバリーメディアクリエーター」は、購入時の状態ではインストールされていませんので、ご使用の際はあらかじめインストールしてください。

参照 ▶ インストール方法「6章 3 アプリケーションをインストールする」

3 起動方法

あらかじめ、次の準備を行ってください。

- USBハブ（市販品）を使用して、USBフラッシュメモリまたは外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）でリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめUSBハブを、本製品のUSBコネクタに接続してください。

参照 ▶ 「4章 2 USB対応機器を使う」

1 電源コードとACアダプターを接続する

2 [スタート] ボタン () をクリックする

3 [TOSHIBA] → [リカバリーメディアクリエーター] をクリックする
「東芝リカバリーメディアクリエーター」が起動します。

「東芝リカバリーメディアクリエーター」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「東芝リカバリーメディアクリエーター」を起動後、[ヘルプ] をクリックする

参照 ▶ リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順「9章 本製品を再セットアップするには」



2章

■ 本製品の基本操作を覚えよう

本製品の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れる／切る

1 電源を入れる

参照 電源コードとACアダプターの接続について
『取扱説明書 1章 3 Windowsを使えるようにする』

お願い 電源を入れるときは

- プリンターなどの周辺機器を接続している場合は、本製品より先に周辺機器の電源を入れてください。

1 電源スイッチを押し、指をはなす

確実に電源スイッチを押ししてください。Power  LEDが白色に点灯することを確認してください。



■ ロック画面が表示された場合

ロック画面（画面左下に大きく日時が表示されている状態）が表示された場合は、**ENTER** キーを押してください。次の画面に進みます。

■ 各種認証を設定している場合

次のいずれかの設定を行っている場合は、認証画面が表示されます。

- ・ パスワードの場合：パスワードを入力し、**ENTER** キーを押してください。
- ・ PINの場合：PINを入力してください。
- ・ 指紋認証の場合：指紋センサーに指を当て、離してください。

■ 複数のユーザーで本製品を使用している場合

表示されているユーザーとは違うユーザーでサインインしたいときは、ユーザーを切り替えてください。

電源の状態を確認するには

電源の状態は Power  LED の点灯状態で確認できます。

	状態	本製品の状態
Power  LED	白色の点灯	電源 ON
	白色の点滅	スリープ中
	消灯	電源 OFF、休止状態

* 電源に関するトラブルについては、『取扱説明書 2章 **2** Q&A集』を参照してください。

2 電源を切る

本製品を使い終わったとき、電源を切る「シャットダウン」を行ってください。間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失ったりするおそれがあります。中断するときは、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する「スリープ」があります。


参照 ▶ スリープについて「本節 4 スリープ」

警告

● 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る

本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。

・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。

①通知領域の  アイコンをクリックする

②「機内モード」をクリックして、ONに切り替える

ONになると、通知領域に  アイコンが表示されます。

・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。

・ 電源を切った状態で待機中でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- SSDやメディアへのアクセス中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。
- 記録メディア保護のため、記録メディアを取りはずしてください。

お願い 操作にあたって**中断する前に**

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアやUSB接続型の外付けハードディスクドライブなどのデータの読み出し、保存（書き込み）が完全に終了していることを確認してください。
データのアクセス途中でスリープまたは休止状態を実行すると、データの読み出し、保存が正しく行われません。

中断したときは


- スリープ中にバッテリー残量が減少した場合は、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒以上押し続けた後電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません。

ハイブリッド スリープのときは

- ハイブリッド スリープを有効にしているとき、スリープを実行するとすぐに画面は真っ暗になりますが、しばらくの間はSSDへのデータ保存が行われています。SSDへのアクセス中は、本製品を動かさないでください。

1 本製品に、USB Type-C™ アダプター、ディスプレイ、キーボード、マウスが接続されていることを確認する

2 [スタート] ボタン () をクリックする


3 [電源] () → [シャットダウン] をクリックする



(表示例)

Windows を終了したあと、本製品の電源が自動的に切れます。
本製品の電源が切れると、Power  LED が消灯します。

 メモ



- [スタート] ボタン () を右クリックして、表示されるメニューから [シャットダウンまたはサインアウト] → [シャットダウン] をクリックしても、電源を切ることができます。
- システムが操作できなくなり、電源を切ることができない場合は、電源スイッチを5秒以上押すと、強制的に電源を切る (強制終了) ことができます。
強制終了は、システムが操作できなくなったとき以外には行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になり、保存していないデータは消失します。

お願い 電源を切るときは

- 本製品に接続している機器 (周辺機器) の電源は、本製品の電源を切ったあとに切ってください。
- 本製品や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取りはずし、BIOS セットアップの設定などを行うときは、**SHIFT** キーを押しながら、メニューから [シャットダウン] をクリックしてください。

3 再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう一度起動することを「再起動」といいます。本製品の設定を変えたときや本製品がスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。再起動するには、次のように操作してください。


- 1 本製品に、USB Type-C™ アダプター、ディスプレイ、キーボード、マウスが接続されていることを確認する
- 2 [スタート] ボタン () をクリックする
- 3 [電源] () → [再起動] をクリックする



(表示例)

本製品が再起動します。

メモ

- [スタート] ボタン () を右クリックして、表示されるメニューから [シャットダウンまたはサインアウト] → [再起動] をクリックしても、再起動することができます。

2 章

本製品の基本操作を覚えよう

4 スリープ

本製品の使用中断する場合は、本製品を「スリープ」にしてください。次に電源スイッチを押したときに、すばやく中断したときの状態を再現することができます。

スリープ中はバッテリーを消耗しますので、電源コードとACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。スリープ中にバッテリーの残量が少なくなると、保存されていないデータは消失します。このため、スリープを実行する前にデータを保存することを推奨します。

ハイブリッドスリープを使用すると、データはメモリとSSDに保存されます。

参照 ▶ ハイブリッドスリープ「本項 **2** スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属している説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1 スリープの実行方法

1 本製品に、USB Type-C™ アダプター、ディスプレイ、キーボード、マウスが接続されていることを確認する

2 [スタート] ボタン () をクリックする


3 [電源] () → [スリープ] をクリックする



(表示例)

スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- [スタート] ボタン () を右クリックして、表示されるメニューから [シャットダウンまたはサインアウト] → [スリープ] をクリックしても、スリープを実行することができます。

2 スリープ機能を強化する

通常のスリープのほかに「ハイブリッドスリープ」という機能が用意されています。本製品の使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッドスリープはメモリとSSDの両方に保存します。




購入時の状態ではハイブリッドスリープは無効に設定されているため、作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

ハイブリッドスリープを有効にしておくことで、SSDから作業内容を復元できます。ハイブリッドスリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。この場合は、スリープを実行してからスリープ状態になるまでの時間が長くなります。またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

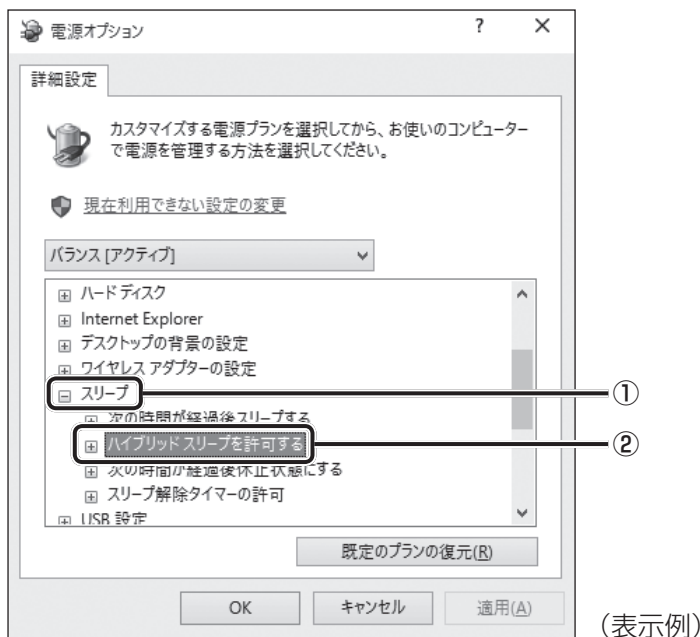
休止状態になると、本製品の使用を中断したときの状態がSSDに保存されます。

参照▶ 休止状態に移行する設定について「本項-「役立つ操作集」」

ハイブリッドスリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

- 1 [スタート] ボタン () をクリックする
- 2 [Windowsシステムツール] → [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ 電源オプション] をクリックする
- 4 選択している電源プランの [プラン設定の変更] をクリックする
- 5 [詳細な電源設定の変更] をクリックする
[詳細設定] 画面が表示されます。

6 [スリープ] 左の **+** をクリックして展開し①、表示される項目から [ハイブリッド スリープを許可する] 左の **+** をクリックして展開する②



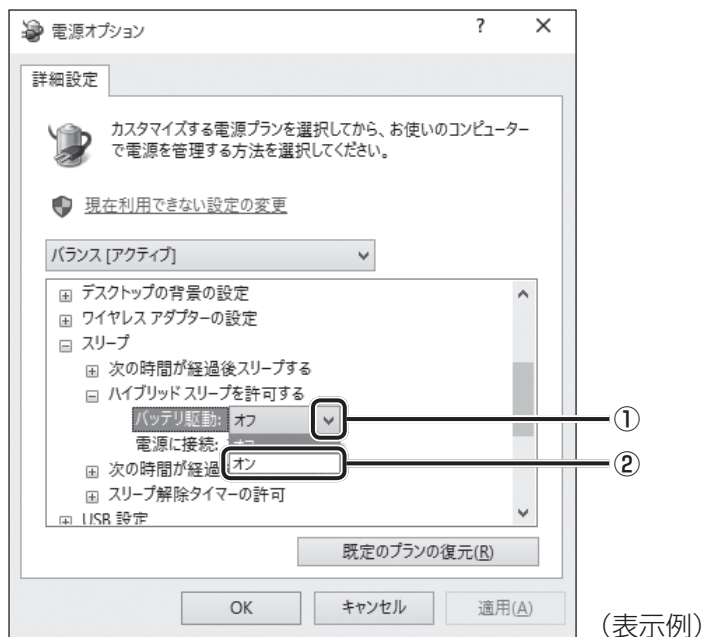
7 ハイブリッド スリープをONにしたい項目（[バッテリー駆動] / [電源に接続]）をクリックする

それぞれの項目は、次のようになります。

[バッテリー駆動] : バッテリー駆動時の、ハイブリッド スリープ機能のON/OFFを設定できます。

[電源に接続] : 電源に接続しているときの、ハイブリッド スリープ機能のON/OFFを設定できます。

- 8 項目の横に表示された▼をクリックし①、表示されたメニューから【オン】をクリックする②



- 9 [OK] ボタンをクリックする

これでハイブリッドスリープを有効にする設定は完了です。
この状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。

👤 役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。

[詳細設定] 画面で [次の時間が経過後休止状態にする] 左の ⊕ をクリックして展開し、表示された項目を選択して ▲ ▼ で時間を設定してください。

スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 ▶ 休止状態「本節 5 休止状態」

5 休止状態

本製品の使用を中断する場合、設定によって、自動的に休止状態にできます。

参照▶ 休止状態にするための設定「本節 **6** 簡単に電源を切る／本製品の使用を中断する」

休止状態になると、本製品の使用を中断したときの状態がSSDに保存されます。

なお数日以上使用しないときや、付属している説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。電源スイッチを押すと、中断時の状態が再現されます。

6 簡単に電源を切る／本製品の使用を中断する

本製品の電源スイッチを押したときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープ／休止状態などに移行することができます。

1 本製品の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をクリックする

3 [ ハードウェアとサウンド] をクリックする

4 [ 電源ボタンの動作の変更] をクリックする

5 [電源ボタンを押したときの動作] で、移行する状態を選択する

[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。

[バッテリー駆動] 時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

6 [変更の保存] ボタンをクリックする

本製品の電源スイッチを押すと、手順 **5** で設定した状態へ移行します。

本製品には、補助記憶装置として、フラッシュメモリを記憶媒体とするドライブを搭載しています。SSD（ソリッドステートドライブ）とは、ハードディスクドライブの記憶媒体である磁気ディスクの代わりに、NANDフラッシュメモリを使用した大容量記憶媒体です。

SSDの補助記憶装置としての機能は、ハードディスクドライブと同等です。

以下の機能についてもご利用いただけます。

- **BIOSセットアップ**

BIOSセットアップ画面には「HDD/SSD」と表示されますが、SSDでも同様の動作をします。

- **HDDパスワード**

ハードディスクドライブ同様、登録可能です。

本体のSSDは、取りはずしできません。

USB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

本書および付属している説明書に記載されている「本体のハードディスクドライブ」、「HDD」、「SSD」は、SSDを指します。

お願い 操作にあたって

- 本製品を激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- SSDに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 5 - 2 SSDについて」

本製品ではmicroSDメモリカードをSDカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 使えるmicroSDメモリカードについて

- microSDメモリカード（以降、microSDHCメモリカード、microSDXCメモリカードを含みます。）*1*2

*1 すべてのメディアの動作を保証するものではありません。

*2 microSDIOカードには対応していません。

新品のmicroSDメモリカードは、microSDメモリカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、microSDメモリカードを使えるようにすることです。

フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 カードのセットと取り出し

お願い 操作にあたって

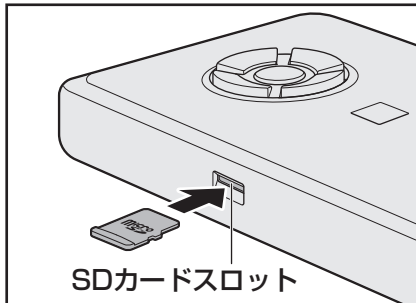
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 6 - 1 microSD メモリカードを使うにあたって」

1 セットする

1 microSD メモリカードの表裏を確認し、表を上にして、SDカードスロットに挿入する

奥まで挿入します。



2 セットしたカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

著作権保護されたファイルについては見ることはできない場合があります。

1 タスクバーの [エクスプローラー] ボタン () をクリックする

「エクスプローラー」が起動します。

2 カードのアイコンを選択する

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

microSD メモリカード : リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card、SD

セットした microSD メモリカードの内容が表示されます。

メモ

- microSD メモリカードによっては、SD カードスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、microSD メモリカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。

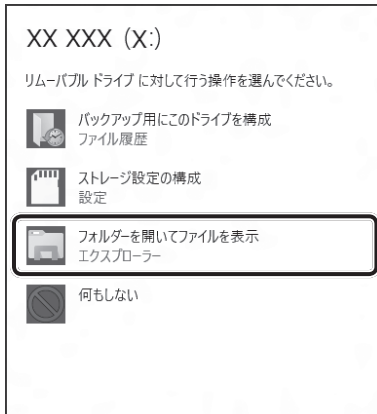
次のように操作してください。

① メッセージをクリックする

甲 XXXXX (X:)
選択して、リムーバブルドライブ に対して行う操作
を選んでください。

(表示例)

② [フォルダーを開いてファイルを表示] を選択する




(表示例)


3 取り出す

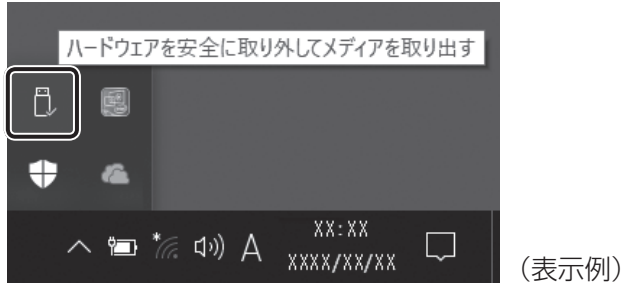
microSD メモリカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。

ファイルやウィンドウを閉じてから、操作を行ってください。

1 microSD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す] アイコン () をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。



- ② 表示されたメニューから [(取りはずす microSD メモリカード) の取り出し] をクリックする
「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

2 microSD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

2 章

本製品の基本操作を覚えよう



3章

インターネットやネットワークに接続する

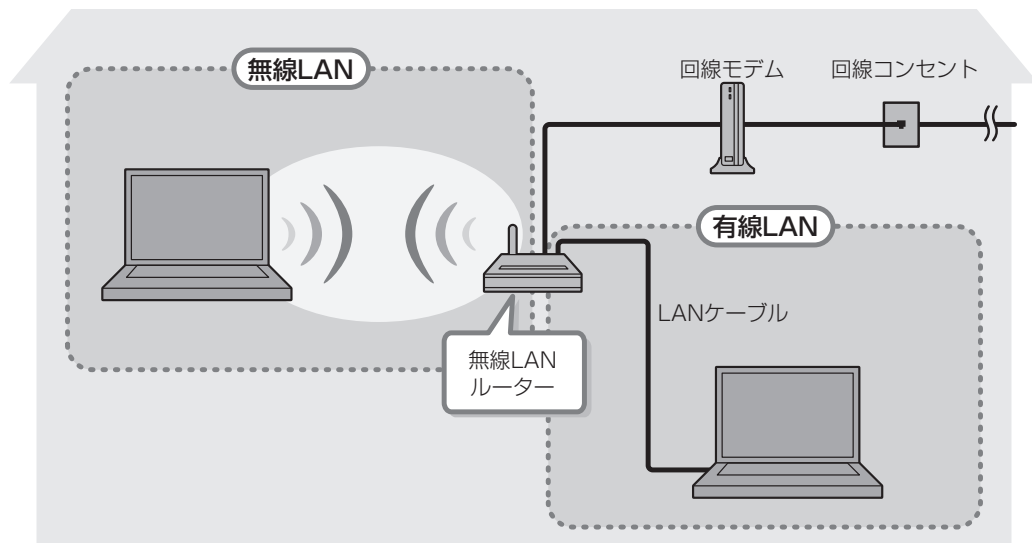
ネットワークや無線LANの概要について説明しています。
また、本製品が無線LANアクセスポイントと通信するための設定方法を説明しています。

1 LAN機能を使う

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のコンピューターを持っている場合や、ひとりで複数のコンピューターを持っている場合など、複数のコンピューターがあるときは、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。

LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



(接続例)

本製品の無線LAN機能搭載モデルでは、無線LANを使用することができます。

■ 無線LAN

無線LANとは、コンピューターにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。

無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販品）を使用することによって、コンピューターからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。



ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属している説明書を確認してください。また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

参照 有線LAN「5章 4 有線LAN機能を使う」

* 無線LAN機能搭載モデルのみ

1 無線LAN機能をONにする

警告

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る
本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。
 - ① 通知領域の  アイコンをクリックする
 - ② [機内モード] をクリックして、ONに切り替える
ONになると、通知領域に  アイコンが表示されます。
 - ・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

お願い


- あらかじめ、次の説明を確認してください。
参照▶ 「付録 5 - 3 無線LANについて」
- 本書に、セキュリティに関する注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
無線LANを使用する場合は記述をよく読んで、セキュリティの設定を行ってください。
参照▶ 「付録 2 デイリーケアとアフターケア」

1 無線LANアクセスポイントの電源を入れる

参照▶ 無線LANアクセスポイントの操作の詳細について
『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』

2 本製品の電源を入れる

3 通知領域の アイコンをクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

4 [Wi-Fi] をクリックして、ONに切り替える

ONにすると、アイコンに色が付き、アクティブな状態になります。

2 無線LANを設定する

無線LANアクセスポイントと本製品が、無線LANで通信できるように設定を行います。

メモ

- 無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
「付録 2 デイリーケアとアフターケア」

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントと本製品の双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。

本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。

次の設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

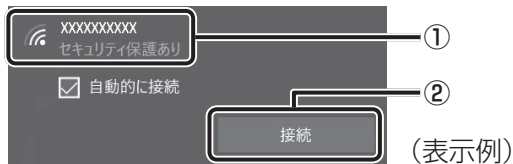
1 通知領域の アイコンをクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

本製品の周囲にあるワイヤレス ネットワーク（無線LANアクセスポイント）のSSIDの一覧が表示されます。

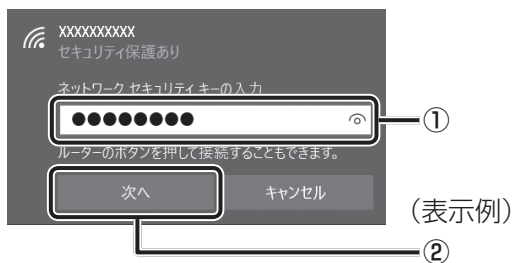


2 接続するワイヤレスネットワークをクリックし①、【自動的に接続】を チェックした状態で【接続】ボタンをクリックする②



環境によっては、近隣で使用されているワイヤレスネットワークのSSIDが表示される場合もあるので、必ず目的のワイヤレスネットワークを選択してください。

3 ネットワークセキュリティ情報を入力して①、[次へ] ボタンをクリックする②



以降は、画面の指示に従って操作してください。

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティキーなどの詳細は、お使いになる『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

4章

■ 周辺機器を使って機能を広げよう

本製品でできることをさらに広げたい。

そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。

本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1

周辺機器を使う前に

周辺機器とは、本製品に接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、本製品の性能を高めたり、本製品が持っていない機能を追加することができます。

周辺機器は、本製品の周囲にあるコネクタや端子につながります。

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。

周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルの規格や、コネクタ／端子の形状などのことです。

購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。

周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 4 周辺機器について」

次の周辺機器が使用できます。使用できる周辺機器の種類は、モデルによって異なります。

- USB 対応機器
- マイク、ヘッドホン
- Bluetooth® 対応機器
 - * Bluetooth® 機能搭載モデルのみ

参照▶ 「本章 2」以降

ユーザー

USB 対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。

また、初めて接続する周辺機器を認識すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器すべての動作を保証するものではありません。

お願い USB 対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 4 - USB 対応機器の操作にあたって」

USB コネクタについて

本コネクタには、USB3.0 対応機器、USB2.0 対応機器、USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

使用している USB 対応機器が USB3.0 規格に対応しているかどうかは、あらかじめ確認してください。

また、市販の USB ハブを本コネクタに接続することができます。

本体に接続する側の USB コネクタや USB ハブに接続できる USB 対応機器については、『USB ハブに付属している説明書』を確認してください。

USB Type-C™ コネクタについて

USB Type-C™ コネクタには、USB3.1 Gen1／USB3.0／USB2.0／USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

市販の USB 対応機器を接続する場合は、本体に接続する側のプラグが、USB Type-C™ のものを使用してください。もし、USB Type-C™ ではない場合は、USB Type-C™ 変換アダプターなどが必要です。接続する USB 対応機器側のプラグについては、『USB 対応機器に付属している説明書』を確認してください。

参照▶ USB 対応機器の詳細『USB 対応機器に付属している説明書』

1 USB対応機器の取り付け／取りはずし

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

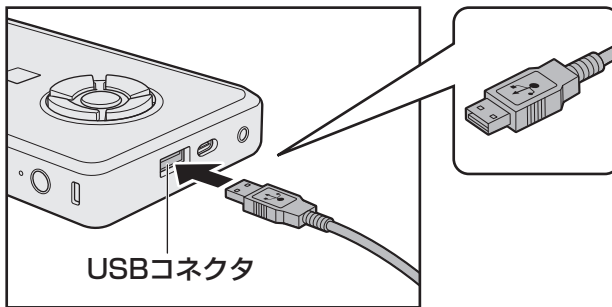
この手順が必要ない機器もあります。

参照▶ USB対応機器の詳細『USB対応機器に付属している説明書』

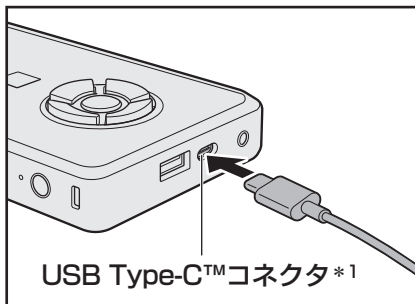
2 USBケーブルのもう一方のプラグを本体のUSBコネクタに差し込む

【USBコネクタ】

プラグの向きを確認して差し込んでください。




【USB Type-C™コネクタ】




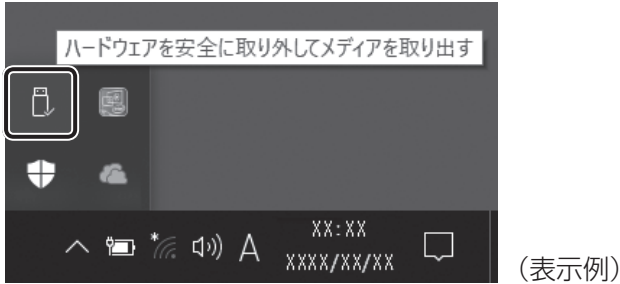
* 1 USB3.1 Gen1 規格に対応しています。

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の【ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す】アイコン() をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 **2** に進んでください。



- ② 表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をクリックする
「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

- 2** 本製品とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルのプラグを抜く

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

3

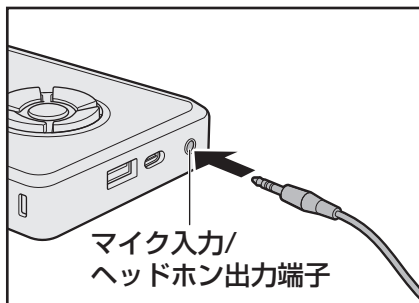
マイクやヘッドホンを使う

本製品には、マイクやヘッドホンを接続できます。

マイクやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 マイク入力/ヘッドホン出力端子

本製品では、マイク入力端子とヘッドホン出力端子兼用の端子を搭載しています。



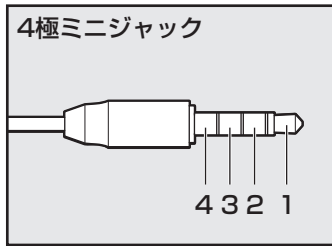
マイク入力/
ヘッドホン出力端子

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

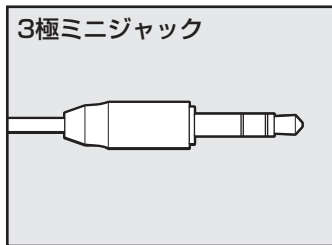
1 使用できる端子の種類

本製品で使用できる端子の種類は次のとおりです。



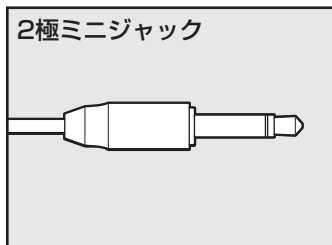
- プラグは直径3.5mm4極ミニジャックタイプが使用できます。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
 - 1：ヘッドホン左
 - 2：ヘッドホン右
 - 3：グラウンド（マイク）
 - 4：マイク（グラウンド）
- 3ピンと4ピンのグラウンドとマイクは、本製品が自動識別します。
- マイク機能のみ、ヘッドホン機能のみを使用する場合、設定の変更を行う必要があります。

参照▶ 「本節 **4** マイク／ヘッドホンを選択する」



- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。
- マイク、ヘッドホンが使用できます。
- 設定の変更を行う必要があります。

参照▶ 「本節 **4** マイク／ヘッドホンを選択する」



- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクでもマイク本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクであれば使用できます。
- 設定の変更を行う必要があります。

参照▶ 「本節 **4** マイク／ヘッドホンを選択する」

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクを使用してください。

すべてのマイク、ヘッドホン、ヘッドセットに対応するものではありません。

2 マイクを使う




マイクを使うときは、マイク入力/ヘッドホン出力端子に接続します。

1 マイクの接続と取りはずし

- 1 マイクのプラグをマイク入力/ヘッドホン出力端子に差し込む
取りはずすときは、マイク入力/ヘッドホン出力端子からマイクのプラグを抜きます。

2 本製品上で録音するときの音量調整

接続したマイクから録音をする際の音量を調節できます。

- 1 [スタート] ボタン () をクリックする
- 2 [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ Realtek HD オーディオマネージャ] をクリックする
[Realtek HD オーディオマネージャ] 画面が表示されます。
- 4 [マイク] タブまたは [マイク配列] タブの [録音ボリューム] のつまみで音量を調節する
- 5 [OK] ボタンをクリックする

3 ヘッドホンを使う

マイク入力/ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して、音楽や音声を聞くことができます。

お願い ヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 5 - 4 - ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって」

1 ヘッドホンの接続と取りはずし

1 ヘッドホンのプラグをマイク入力/ヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力/ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンの音量調整

ヘッドホンの音量は、Windowsの音量ミキサーで調節してください。

1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をクリックする

3 [ハードウェアとサウンド] → [システム音量の調整] をクリックする

[音量ミキサー] 画面が表示されます。

4 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

[ミュート] ボタン () をクリックすると消音 (ミュート) になります。

□音量ミキサーの各項目

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

マイク入力/ ヘッドホン出力端子	本製品のマイク入力/ヘッドホン出力端子を使用している場合は、ヘッドホンの音量を調整します。 本製品に音声出力対応のディスプレイを接続している場合は、ディスプレイの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（メッセージの表示、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。

参照 ▶ 詳細について『アプリケーションに付属している説明書』





4 章

メモ

- インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ準拠。
- キャプチャソフトなどを使用して、本製品で再生中の音声を録音することはできません。

4 マイク／ヘッドホンを選択する

ご使用のマイク／ヘッドホンを選択します。

- 1 マイクまたは、ヘッドホンを接続する
- 2 [スタート] ボタン () をクリックする
- 3 [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をクリックする
- 4 [ ハードウェアとサウンド] → [ Realtek HD オーディオマネージャ] をクリックする
[Realtek HD オーディオマネージャ] 画面が表示されます。
- 5 右側にある  をダブルクリックする
- 6 デバイスを選択する
選択するデバイスの をクリックして にしてください。
- 7 [OK] ボタンをクリックする
- 8 [Realtek HD オーディオマネージャ] 画面で、[OK] ボタンをクリックする

* Bluetooth[®]機能搭載モデルのみ

Bluetooth[®]対応機器と接続して使用することができます。

お願い Bluetooth[®]機能の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 4 - Bluetooth[®]について」



メモ

- Bluetooth[®]のバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth[®]対応機器があります。本製品に搭載されているBluetooth[®]機能のバージョンについては、次の説明を確認してください。
参照▶ 「付録 12 - 3 Bluetooth[®]の仕様」
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth[®]対応機器と接続する

警告

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る
本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。
 - ① 通知領域の アイコンをクリックする
 - ② [機内モード] をクリックして、ONに切り替える
ONになると、通知領域に アイコンが表示されます。
 - ・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

1 Bluetooth®対応機器の電源を入れ、Bluetooth®機能をONにする

参照▶ Bluetooth®対応機器の操作方法の詳細『Bluetooth®対応機器に付属している説明書』

2 [スタート] ボタン () をクリックする**3** [設定] をクリックする**4** [デバイス] → [Bluetoothとその他のデバイス] をクリックする**5** [Bluetooth] を [オン] に設定する

[オン] にすると、Bluetooth®機能がONになります。

6 Bluetooth®対応機器との接続設定を行う



5章

■ USB Type-C™ アダプターの 取り扱い

* USB Type-C™ アダプター付属モデルのみ

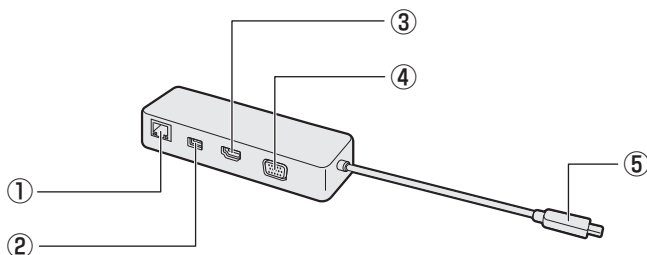
USB Type-C™ アダプターの各部の取り扱いについて説明しています。

1

USB Type-C™アダプターの各部の名称

USB Type-C™アダプターの各部の名称は、次のとおりです。

右側面図



① LAN コネクタ

LANケーブルを使用して、通信回線に接続します。

② USB コネクタ

USB対応機器を接続します。
USB3.0規格に対応しています。

③ HDMI® 出力端子

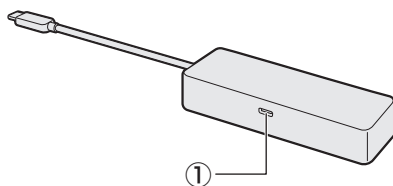
HDMI®ケーブルを接続して、HDMI®入力対応機器（テレビ、外部ディスプレイなど）に本製品の映像を表示します。

④ RGB コネクタ

外部ディスプレイを接続して、本製品の映像を外部ディスプレイに表示します。

⑤ このプラグを本製品のUSB Type-C™コネクタに差し込みます。

左側面図



① 本製品では使用できません。

USB Type-C™アダプターの次のコネクタと、テレビや外部ディスプレイをケーブルで接続すると、接続した表示装置の画面に本製品の画面を表示させることができます。

- エイチディーイームアイ HDMI® 出力端子
- アールジービー RGB コネクタ

お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。


参照 「付録 5 - 8 USB Type-C™アダプターの取り扱いについて」

参照 「付録 5 - 8 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」

1 HDMI® 出力端子に接続する／取りはずす

HDMI®入力端子があるテレビや外部ディスプレイを接続できます。

メモ

- HDMI®対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- 接続するHDMI®ケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMI®ケーブルは、HDMI®ロゴ（**HDMI**®）の表示があるケーブルを使用してください。
- 1,920 × 1,080 ドット以上の解像度の出力には、ハイスピードHDMI®ケーブルを使用してください。なお、使用時には解像度の変更が必要です。解像度については、タスクバーの検索ボックス（）で、「解像度」と入力して検索してください。
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

HDMI® 出力端子に接続する

あらかじめ、本製品にUSB Type-C™アダプターを接続しておいてください。

- 1 HDMI® ケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI® 入力端子に差し込む
- 2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる
- 3 HDMI® ケーブルのもう一方のプラグをUSB Type-C™ アダプターのHDMI® 出力端子に差し込む

参照 ▶ HDMI® 出力端子「本章 1 - 右側面図」





メモ

- HDMI® 接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMI® ケーブルを抜いたあと、再度HDMI® ケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

□ 音声の出力をテレビなどに切り替える

HDMI® ケーブルでテレビや外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先がテレビや外部ディスプレイに切り替わります。

テレビや外部ディスプレイを接続しても音声が変わらない場合は、次の設定を行ってください。

- 1 [スタート] ボタン () をクリックする
- 2 [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ サウンド] をクリックする
[サウンド] 画面が表示されます。
- 4 [再生] タブでテレビのアイコン () がある項目を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックする
- 5 [OK] ボタンをクリックする

HDMI® 出力端子から取りはずす

- 1 HDMI® 出力端子からHDMI® ケーブルのプラグを抜く

2 RGB コネクタに接続する／取りはずす

RGB 端子がある外部ディスプレイを接続できます。



- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- 1,920 × 1,200 ドットは、Reduced Blanking 対応の外部ディスプレイでのみ表示可能です。
- RGB 端子を備えたテレビへは、外部ディスプレイのように RGB ケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、本項目の説明と『テレビに付属の説明書』を参照してください。

RGB コネクタに接続する

あらかじめ、本製品に USB Type-C™ アダプターを接続しておいてください。

- 1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを外部ディスプレイの RGB コネクタに差し込む
- 2 外部ディスプレイの電源を入れる
- 3 外部ディスプレイのケーブルのもう一方のプラグを USB Type-C™ アダプターの RGB コネクタに差し込む

USB Type-C™ アダプターの RGB コネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。

参照 ▶ RGB コネクタ「本章 1 - 右側面図」

RGB コネクタから取りはずす

- 1 RGB コネクタから外部ディスプレイのケーブルのプラグを抜く

3

USB対応機器を使う

ユーザー

USB対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。

また、初めて接続する周辺機器を認識すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

USBコネクタには、USB3.0対応機器、USB2.0対応機器、USB1.1対応機器を取り付けることができます。

使用しているUSB対応機器がUSB3.0規格に対応しているかどうかは、あらかじめ確認してください。

USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

参照▶ USB対応機器の詳細『USB対応機器に付属している説明書』

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 8 - USB対応機器の操作にあたって」

1 取り付け

あらかじめ、本製品にUSB Type-C™アダプターを接続しておいてください。

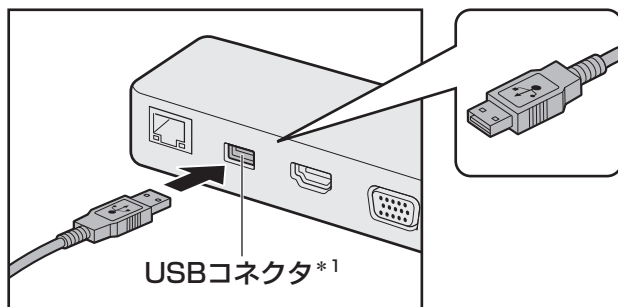
1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。

参照▶ USB対応機器の詳細『USB対応機器に付属している説明書』

2 USBケーブルのもう一方のプラグをUSB Type-C™アダプターのUSBコネクタに差し込む


プラグの向きを確認して差し込んでください。




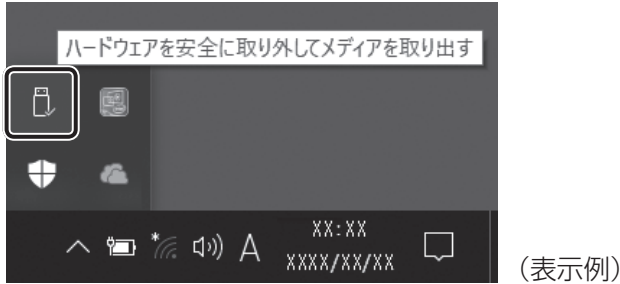
* 1 USB3.0規格に対応しています。

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

① 通知領域の【ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す】アイコン()をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 **2** に進んでください。



② 表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をクリックする

2 USB Type-C™アダプターとUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルのプラグを抜く

USB Type-C™アダプターには、ブロードバンド接続などに使用するLAN機能が搭載されています。

USB Type-C™アダプターのLANコネクタに光回線終端装置、ADSLモデムやブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。

1 LANケーブルを接続する

あらかじめ、本製品にUSB Type-C™アダプターを接続しておいてください。

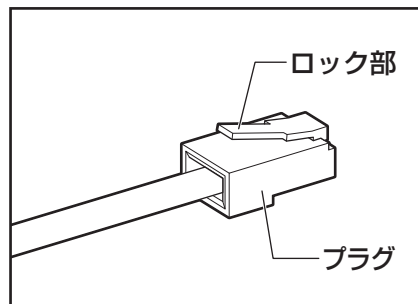
お願い LANケーブルの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 8 - LANケーブルの使用にあたって」

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

LANケーブルは本製品には付属していません。市販のLANケーブルを購入してください。



1 本体またはUSB Type-C™アダプターに接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをUSB Type-C™アダプターのLANコネクタに差し込む

ロック部の向きに注意して、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

参照▶ LANコネクタ「本章 1 - 右側面図」

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

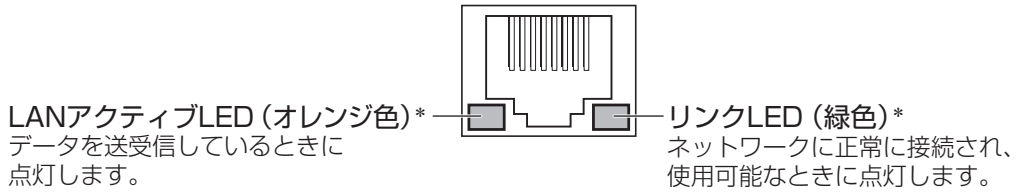
接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

参照▶ 光回線終端装置、ADSLモデムの設定について
『プロバイダーなどから送られてくる資料』

参照▶ ブロードバンドルーターの設定について
『ブロードバンドルーターに付属している説明書』

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



* 本LEDは、データ通信可能な状態のときに有効です。その他の状態（OSの起動時など）では、正しく表示されない場合があります。

メモ

- Wake-up on LANを使用する場合は、必ず電源コードとACアダプターを本製品へ接続してください。



6章

■ アプリケーション

本製品に用意されているアプリケーションについて説明しています。
用意されているアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

本製品の画面をテレビ／外部ディスプレイにワイヤレスで表示する

*ワイヤレスディスプレイ機能搭載モデルのみ

ワイヤレスディスプレイ機能を使って、本製品の表示画面をMiracast™に対応したテレビ／外部ディスプレイに表示することができます。

ただし、すべてのMiracast™対応機器との動作を保証するものではありません。

お願い

ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 5 ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって」

1 対応しているテレビや外部ディスプレイの準備

テレビ／外部ディスプレイを接続するときは、『テレビ／外部ディスプレイに付属している説明書』もあわせて確認してください。接続先のテレビ／外部ディスプレイは、Miracast™に対応している必要があります。

2 ワイヤレスディスプレイ機能で接続する

- 1 テレビ／外部ディスプレイの電源を入れ、ワイヤレスディスプレイ機能で接続するための準備を行う

参照▶ 各機器の操作方法の詳細『テレビ／外部ディスプレイに付属している説明書』

- 2 本製品の無線LAN機能をONにする

参照▶ 「3章 2 - 1 無線LAN機能をONにする」

- 3 [スタート] ボタン () をクリックする

- 4 [設定] をクリックする

- 5 [システム] → [ディスプレイ] をクリックする

- 6 [ワイヤレス ディスプレイに接続する] をクリックする

検出したテレビ／外部ディスプレイが表示されます。

- 7 接続するテレビ／外部ディスプレイをクリックする

画面に従って設定してください。

1 eco ユーティリティ

「東芝セッティング」の「eco ユーティリティ」では、本製品の消費電力をおさえるためのさまざまな設定が行えます。

■eco 充電モード

バッテリーの充電方法の「eco 充電モード」を有効にすると、バッテリーフル充電時の容量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅くできます。本製品の電源コードとACアダプターをコンセントに接続したまま使用される方におすすめです。ただし、バッテリーのフル充電の容量が少なくなるため、バッテリーでの駆動時間は短くなります。

■ピークシフト

昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現します。たとえば夏期の日中など電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に充電したバッテリーで本製品を動作させる電源管理機能を備えています。

ピークシフト機能は、本製品単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するコンピューターの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。


お願い

- ピークシフトをご利用の場合、自動的にバッテリー駆動に切り替わり、CPUやグラフィックアクセラレーターの性能が十分に発揮されない場合があります。映像や音楽を視聴する場合、ピークシフトを一時的に無効にすることをおすすめします。

メモ

- 表示されるメニューは、モデルにより異なります。

起動方法

- 1 [スタート] ボタン () をクリックする
- 2 [東芝セッティング] をクリックする
- 3 [ecoユーティリティ] で各項目を設定する

「ecoユーティリティ」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

- 1 [ecoユーティリティ] 画面で [ecoユーティリティについて詳しくはこちらをクリックしてください] をクリックする
「ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

6 章

アプリケーション

メモ

- モデルによっては、ピークシフト期間中やeco充電モードで規定値以上充電されると、バッテリーへの充電は一時的に停止されます。
-

3

アプリケーションをインストールする

購入時にインストールされていないアプリケーションを使用する場合は、あらかじめインストールが必要です。

また、本製品にプレインストールされているアプリケーションは、一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバーを指定して再インストールすることができます。

同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、「コントロールパネル」の「プログラムのアンインストール」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。

アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 操作手順

アプリケーションによっては、あらかじめインターネットに接続しておく必要があります。

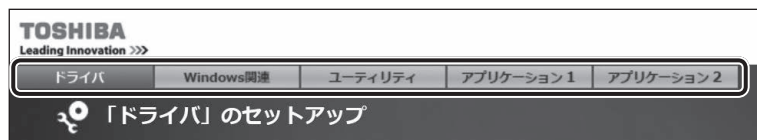
1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [ アプリケーションの再インストール] をクリックする

3 [セットアップ画面へ] をクリックする

アプリケーションやドライバーのセットアップメニュー画面が表示されます。
アプリケーションやドライバーのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

4 タブをクリックして、インストールしたいアプリケーションを探す



(表示例)

画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。アプリケーションをクリックすると、画面右側に説明が表示されますので、よくお読みください。

5 画面左側のアプリケーション名を選択し、画面右側の [「XXX」のセットアップ] をクリックする

「XXX」にはアプリケーション名が入ります。
選択したメニューによっては別の言葉が表示されます。説明文の下の、下線が引かれている言葉をクリックしてください。

6 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

次のメッセージが表示された場合は、[開く] または [実行] ボタンをクリックしてください。

- 「XXXXX (ファイル名) をXXXXX (マシン名) から開きますか？」
- 「XXXXX (ファイル名) をXXXXX (マシン名) から実行しますか？」
- 「XXXXX (ファイル名) のダウンロードが終了しました。」

メモ

- [アプリケーションの再インストール] にはないアプリケーションは、Windowsストアからダウンロードできる場合があります。
-

7 章

■ システム環境を設定する

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 パスワードセキュリティ

パスワードとは、本製品やWindowsの起動時などに入力する、認証用の文字列のことです。パスワードが設定されている場合、あらかじめ決めた文字列を正しく入力しないと起動できません。

このため、自分にしかわからないパスワードを設定しておけば、ほかの人が本製品やWindowsを起動できなくなるため、データを見られたり、誤って消されてしまう心配が少なくなります。一度設定したパスワードは、後から変更したり、削除したりすることができます。

パスワードにはいろいろな種類があります。

● Windowsパスワード

Windowsを起動するときやスクリーンセーバーから復帰するときに、パスワードを入力しないと起動しません。

使用者として登録しているユーザーが、それぞれ別々に設定できます。

● ユーザーパスワード (BIOSパスワード)

電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、パスワードを入力しないと起動しません。

● スーパーバイザーパスワード (BIOSパスワード)

BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかの本製品の設定について制限をかけられます。スーパーバイザーが使用します。

● HDDパスワード

本体のSSDを保護します。電源を入れるときにHDDパスワードを入力しないと起動しません。万が一パスワードを忘れた場合、永久にSSDを使用できなくなる、非常に強固なセキュリティです。

メモ

- ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、次のサポート窓口に連絡してください。
 - ・ Windowsパスワードを忘れたとき： 東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口
 - ・ その他のパスワードを忘れたとき： 東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口
- HDDパスワードを忘れてしまった場合は、SSDは永久に使用できなくなりますので、有料にてSSDを交換します。
- 「その他のパスワード」の場合は、有料にてパスワードを解除します。その際、パスワードの種類によっては、お客様のデータが失われる場合があります。
- またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要です。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
	数字（半角）	0123456789
	記号の一部（半角）	;. ,.（スペース）など
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全角文字（2バイト文字） ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 記号の一部（半角） 【例】 ;（バーチカルライン） _（アンダーバー） ¥（エン）など 	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード


「ユーザーパスワード」は、電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、決まった文字を入力しなければ起動できなくする機能です。

ユーザーパスワードの登録は、「東芝セッティング」で設定します。また、登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 東芝セッティングでの設定

ユーザーパスワードの登録

ユーザーパスワードを登録する手順を説明します。HDDパスワードもあわせて登録できます。

- 1 [スタート] ボタン () をクリックする
- 2 [東芝セッティング] をクリックする
- 3 [システムパスワード] で [登録] ボタンをクリックする



(表示例)

[ユーザーパスワードの登録] 画面が表示されます。

4 [入力:] にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

(表示例)

参照 ▶ パスワードに使用できる文字について「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「●」で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

5 [確認入力:]にもう一度パスワードを入力する

モデルによっては、[同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。]項目が表示されます。

[同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。]にチェックがついている場合、ここで設定したユーザーパスワードがHDDパスワードとしても登録されます。

参照 ▶ HDDパスワードについて「本節 4 HDDパスワード」

ユーザーパスワードのみ登録する場合は、チェックをはずしてください。

6 [登録] ボタンをクリックする

入力エラーのメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 4 から操作をやり直してください。

手順 5 で [同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをしていない場合は、手順 8 に進んでください。

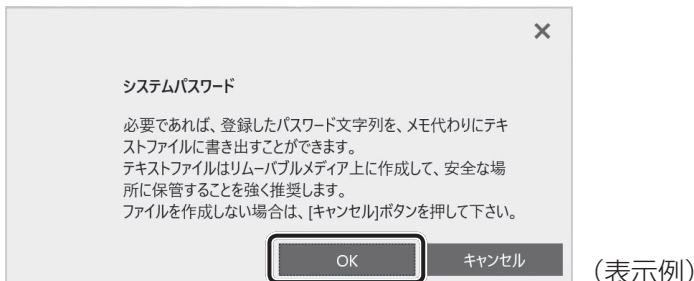
チェックをしている場合は、「HDDユーザーパスワードを登録しようとしています。」という画面が表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

8 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。



パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。[OK] ボタンをクリックすると、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

9 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、USBフラッシュメモリなどの記録メディアを強くおすすめします。あらかじめ用意しておいてください。

- ① 記録メディアをセットする
- ② 保存先を選択する
- ③ [ファイル名] にファイル名を入力する
- ④ [保存] ボタンをクリックする

パスワードファイルが選択した保存先に作成されます。

手順 **5** で [同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。] をチェックしている場合、「今すぐコンピューターを再起動しますか?」という画面が表示されるので、[いいえ] ボタンをクリックします。

10 必要に応じて、[パスワードの注釈:] を入力する

[パスワードの注釈] にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

参照▶ パスワードに使用できる文字について「本節 - パスワードに使用できる文字」パスワード文字列そのものを登録しないでください。

11 [適用] ボタンをクリックする

手順 **5** で [同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをした場合は、必ず電源を切る、または再起動してください。

お願い

- パスワードファイルを保存した記録メディアは、安全な場所に保管してください。

 **メモ**

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。
- ユーザーパスワードを登録すると、以後「東芝セッティング」を起動する際に、認証画面が表示されます。パスワードで認証を行ってください。

参照▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [東芝セッティング] をクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照 ▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

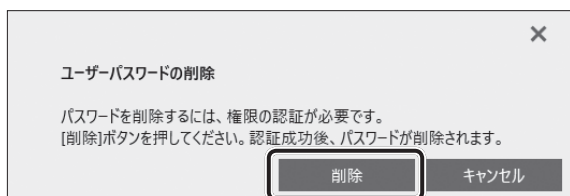
3 [システムパスワード] で [削除] ボタンをクリックする



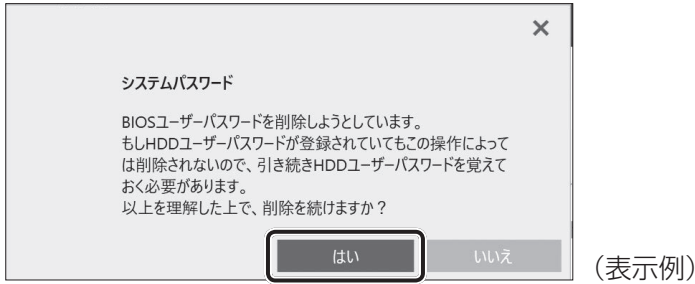
(表示例)

[ユーザーパスワードの削除] 画面が表示されます。

4 [削除] ボタンをクリックする



(表示例)

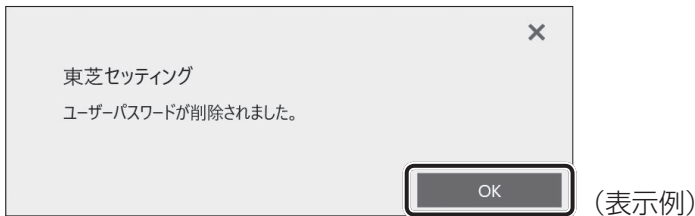
5 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

認証画面が表示されます。

パスワードで認証を行ってください。

参照▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

認証は、「東芝セッティング」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。確認のメッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [東芝セッティング] をクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照 ▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

3 [システムパスワード] で [変更] ボタンをクリックする



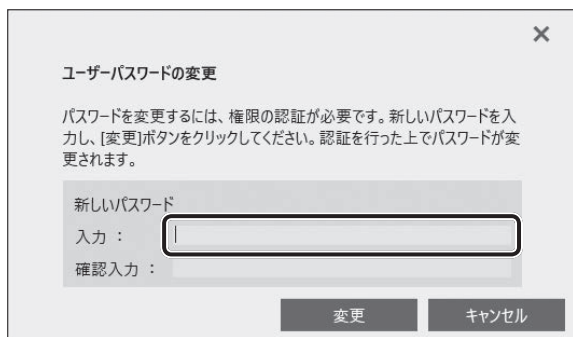
(表示例)

[ユーザーパスワードの変更] 画面が表示されます。

4 [入力:] に新しいパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 ▶ パスワードに使用できる文字について「本節 - パスワードに使用できる文字」



(表示例)

パスワードは1文字ごとに「●」で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

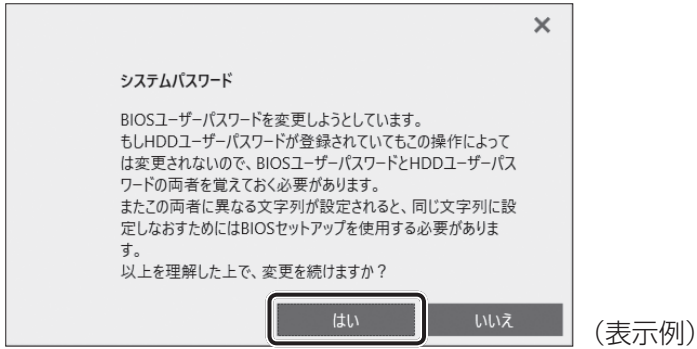
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

5 [確認入力:]にもう一度新しいパスワードを入力する

6 [変更] ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする



認証画面が表示されます。

パスワードで認証を行ってください。

ここでは、まだパスワードは変更されていないので、本手順 **4**、**5** で入力したのではなく、その前に登録しておいたパスワードを入力してください。

参照▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

認証は、「東芝セッティング」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

パスワードが変更されます。

変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

8 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

参照▶ パスワードファイルの作成方法「本項 **1** - ユーザーパスワードの登録」の手順 **9**

2 BIOS セットアップでの設定

BIOS セットアップでの設定は、「Security」メニューにある「BIOS Password」の「User」で行います。

BIOS セットアップでの設定には、ファンクションキーが搭載されたキーボードをご用意ください。

*ただし、すべてのキーボードの動作を保証するものではありません。

ユーザーパスワードの登録

*この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。

必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

2 電源スイッチを押し、すぐに **[F2]** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、**[ENTER]** キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝セッティング」の場合と同様です。

パスワードは1文字ごとに「*」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 **[ENTER]** キーを押す

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

確認のため、手順 **4** と同じパスワードをもう一度入力してください。

7 **[ENTER]** キーを押す

パスワードが登録されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

参照 BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

ユーザーパスワードの削除

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

- 1** データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る
- 2** 電源スイッチを押し、すぐに **[F2]** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する
各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。
- 3** 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、**[ENTER]** キーを押す
パスワードが入力できる状態になります。
- 4** 登録してあるパスワードを入力する
入力すると1文字ごとに「*」（アスタリスク）が表示されます。
- 5** **[ENTER]** キーを押す
新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。
- 6** 何も入力しないで、**[ENTER]** キーを押す
確認入力の画面が表示されます。
- 7** 何も入力しないで、**[ENTER]** キーを押す
パスワードが削除されます。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目を操作できなくなります。この場合は、本製品の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。

参照 BIOSセットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

ユーザーパスワードの変更

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

2 電源スイッチを押し、すぐに **[F2]** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、**[ENTER]** キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「*」（アスタリスク）が表示されます。

5 **[ENTER]** キーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力する

パスワードは1文字ごとに「*」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

7 **[ENTER]** キーを押す

確認入力の画面が表示されます。

8 手順 **6** で入力したパスワードをもう一度入力する

9 **[ENTER]** キーを押す

パスワードが変更されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目を操作できなくなります。この場合は、本製品の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。

参照 BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

2 スーパーバイザーパスワード

「スーパーバイザーパスワード」は、BIOS セットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかの本体の設定について制限をかける機能です。

Windows 上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでも設定できます。

メモ

- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、一度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう一度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザーで本製品を使用している場合の、各ユーザーの権限を設定する機能です。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 東芝セッティングでの設定

起動方法

1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [東芝セッティング] をクリックする

パスワードを登録している場合は、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 ▶ 認証について「本節 **3** - 東芝セッティングを起動したとき」

3 [システムパスワード] で [高度な設定] 右の  をクリックする

スーパーバイザーパスワードが設定できるようになります。

操作方法

■ スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更

スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝セッティング」でのユーザーパスワードの設定方法と同様です。

ユーザーパスワードの設定を確認し、画面の指示に従って操作してください。

参照 ユーザーパスワード「本節 1 - 1 東芝セッティングでの設定」

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

■ 一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対して、BIOSセットアップの管理などに制限を加えることができます。

スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1 「東芝セッティング」を起動する

認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 - 東芝セッティングを起動したとき」

2 [システムパスワード] で [ユーザーポリシー] の [設定] ボタンをクリックする

3 必要に応じて項目をチェックする

4 [設定] ボタンをクリックする

5 メッセージが表示された場合は内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

認証画面が表示されます。

スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 - 東芝セッティングを起動したとき」

6 メッセージが表示された場合は内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

2 BIOS セットアップでの設定

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

BIOS セットアップでも、スーパーバイザーパスワードを登録することができます。

操作方法

■ スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更

BIOS セットアップの「Security」メニューで、「BIOS Password」の「Supervisor」を選択して設定できます。

登録、削除、変更などの設定方法は、BIOS セットアップでのユーザーパスワードの設定方法と同様です。

ユーザーパスワードの設定を確認してください。

参照▶ 「本節 1 - 2 BIOS セットアップでの設定」

また、BIOS セットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してしまうと、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーの場合、次の操作が一部制限されたり、設定ができなくなったりします。

- ・ BIOS セットアップ画面での設定変更
- ・ 東芝セッティングでの設定変更
- ・ キーボードの **F12** キーを使って起動ドライブを変更する

参照▶ 「本章 2 起動ドライブの変更」

3 パスワードの入力

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN*¹、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

* 1 USB Type-C™アダプター付属モデルのみ

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードを登録している場合、電源を入れるとパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

この場合は、次の方法で本製品を起動します。

■ パスワードを入力する

1 登録したとおりにパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

パスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。その場合は電源を入れ直してください。

■ 指紋認証を使う

* 指紋センサー搭載モデルのみ

1 指紋センサーに指を当て、離す

参照▶ 指紋認証「本章 5 指紋認証を使う」

■ 東芝セッティングを起動したとき

ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードを登録している場合、「東芝セッティング」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

2 **【確認】** ボタンをクリックする

1 パスワードを忘れてしまった場合

- パスワードファイルを確認する

電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器でパスワードファイルを確認してください。

上記の方法でパスワードの確認ができなかった場合は、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。パスワードの解除を依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要です。

4 HDDパスワード

HDDパスワードは、SSDを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、SSDは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
SSDが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいたうえでご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■ HDDユーザーパスワード

本製品の使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

■ HDDマスターパスワード

管理者などが本製品の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してSSDにアクセスできます。
なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。
組織などでHDDマスターパスワードを用いた運用を検討した場合、本製品のユーザーに対して本製品を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでHDDマスターパスワードと仮のHDDユーザーパスワードを設定しておく必要があります。

HDDパスワードの設定には、ファンクションキーが搭載されたキーボードをご用意ください。
*ただし、すべてのキーボードの動作を保証するものではありません。

3 HDDパスワードの登録

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

2 電源スイッチを押し、すぐに **[F2]** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、**[ENTER]** キーを押す

HDD マスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせて **[ENTER]** キーを押してください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 ▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「*」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 **[ENTER]** キーを押す

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

7 **[ENTER]** キーを押す

パスワードが登録されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

HDD マスターパスワードを登録する場合は、BIOS セットアップの「HDD/SSD Password」の「Mode」で「Master + User」を選択します。表示された「Master」にHDD マスターパスワードを設定し、続けてHDD ユーザーパスワードの設定を行います。

参照 ▶ BIOS セットアップの終了方法「本章 **4 - 1 - 2** 終了」

4 HDDパスワードの削除

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

2 電源スイッチを押し、すぐに **[F2]** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、**[ENTER]** キーを押す

HDD マスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせて **[ENTER]** キーを押してください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「*」（アスタリスク）が表示されます。

5 **[ENTER]** キーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

6 何も入力しないで、**[ENTER]** キーを押す

確認入力の画面が表示されます。

7 何も入力しないで、**[ENTER]** キーを押す

パスワードが削除されます。

HDD マスターパスワードの削除を行うと、同時にHDD ユーザーパスワードも削除されます。HDD ユーザーパスワードのみを削除することはできません。

参照 BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

5 HDDパスワードの変更

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

2 電源スイッチを押し、すぐに **[F2]** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、**[ENTER]** キーを押す

HDD マスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせて **[ENTER]** キーを押してください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「*」（アスタリスク）が表示されます。

5 **[ENTER]** キーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力する

パスワードは1文字ごとに「*」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

7 **[ENTER]** キーを押す

確認入力の画面が表示されます。

8 もう一度新しいパスワードを入力する

9 **[ENTER]** キーを押す

パスワードが変更されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

参照 BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとHDDパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

この場合は、次の方法で本製品を起動します。

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN*¹、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

* 1 USB Type-C™アダプター付属モデルのみ

1 登録したとおりにHDDパスワードを入力し、**ENTER**キーを押す

HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。

その場合は、電源を入れ直してください。

ご購入時の設定では、本体のSSDからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

1 一時的に変更する

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。起動ドライブの変更には、ファンクションキーが搭載されたキーボードをご用意ください。
*ただし、すべてのキーボードの動作を保証するものではありません。

1 データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

2 電源スイッチを押し、すぐに **[F12]** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。
[Boot Menu] 画面が表示されます。

3 起動したいドライブを **[↑]** または **[↓]** キーで選択し、**[ENTER]** キーを押す
一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

お願い


- [HDD Recovery] は選択しないでください。HDD Recovery (HDDリカバリー) を実行すると、SSD内に保存されているデータはすべて消去されます。

参照 HDDリカバリー (SSDから本製品を初期状態に戻す) について
「9章 本製品を再セットアップするには」

3 東芝セッティング

「東芝セッティング」を使い、Windows上でシステムの設定を変更できます。複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

設定方法

- 1 [スタート] ボタン () をクリックする
- 2 [東芝セッティング] をクリックする
「東芝セッティング」が起動します。
- 3 画面左側から機能を選択し、画面右側で各設定を行う



- 「システムパスワード」でパスワードを登録している場合、「東芝セッティング」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。パスワードで認証を行ってください。

参照 ▶ 詳細について「本章 **1** - **3** パスワードの入力」


* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

バイオス
BIOS セットアップとは、本製品のシステム構成を本製品から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（本製品、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定



メモ BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝セッティング」、「デバイス マネージャー」などで行ってください。
「デバイス マネージャー」については、タスクバーの検索ボックス（)で、「デバイス マネージャー」と入力して検索してください。

参照▶「本章 3 東芝セッティング」

- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。時計用バッテリーが消耗した場合は、日付と時刻（[Main] メニューの [System Date] と [System Time]）のみが標準設定値に戻ります。

BIOS セットアップを使用するには、ファンクションキーが搭載されたキーボードをご用意ください。

*ただし、すべてのキーボードの動作を保証するものではありません。

1 起動と終了／BIOS セットアップの操作

1 起動

1 データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら [シャットダウン] をクリックして電源を切る

参照▶ 電源の切りかた「2章 **1** - **2** 電源を切る」

2 電源スイッチを押し、すぐに **[F2]** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。

参照▶ パスワードについて「本章 **1** パスワードセキュリティ」

BIOS セットアップが起動します。

起動できなかった場合は、手順 **1** の終了操作を行って本体の電源を切り、手順 **2** をやり直してください。

2 終了

1 **[↑]** **[↓]** **[←]** **[→]** キーを押して、[Exit] メニューを表示する

2 終了方法を選択する

3 画面の指示に従って BIOS セットアップを終了する

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合、変更した内容は、一部の設定を除き無効になります。

設定値は変更前の状態のままです。

各種パスワード、TPM、[Main] メニューの [System Time] と [System Date] の各設定については、変更前の状態に戻りません。

1 **[ESC]** キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 **[Y]** キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

操作	画面右列のメニュー
設定内容を標準値にする	[Setup Defaults] メッセージが表示されます。[Yes] をクリックしてください。各種パスワードなど一部の設定については、標準値に戻りません。
設定を保存し、BIOS セットアップを終了する	[Save and Exit] メッセージが表示されます。[Yes] をクリックしてください。BIOS セットアップ終了後、Windows が起動します。
設定を保存しないで、BIOS セットアップを終了する	[Close] メッセージが表示されます。[Yes] をクリックしてください。サブメニュー表示中は1つ前の画面に戻ります。各種パスワード、TPM、[Main] メニューの[System Time] と[System Date] の各設定については、変更前の状態に戻りません。



役立つ操作集

スーパーバイザーパスワードについて

スーパーバイザーパスワードを設定すると、BIOS セットアップの設定を変更できないようにしたりなど、本製品の設定について制限をかけられます。

参照▶ 「本章 **1** - **2** スーパーバイザーパスワード」

制限をかけた設定を変更したい場合は、「東芝セッティング」でスーパーバイザーパスワードの解除、または設定の変更を行ってください。

2 設定項目

1 Main

■ System Time (システム時刻)

時刻表示部分をクリックして選択後、再度クリックすると、時刻設定画面が表示されます。時と分と秒を、それぞれ [+] [-] をクリックして設定し、[OK] ボタンをクリックしてください。

■ System Date (システム日付)

日付表示部分をクリックして選択後、再度クリックすると、日付設定画面が表示されます。月と日と年を、それぞれ [+] [-] をクリックして設定し、[OK] ボタンをクリックしてください。

■ CPU Type

本体に搭載されているCPUのタイプが表示されます。

■ CPU Speed

本体に搭載されているCPUのスピードが表示されます。

■ HDD/SSD

本体に搭載されているSSDのタイプが表示されます。

■ Total Memory Size

本体に取り付けられているメモリのメモリ総容量が表示されます。

■ System BIOS Version

搭載されているBIOSのバージョンが表示されます。

■ EC Version

ECのバージョンが表示されます。

■ Language

BIOSで使用する言語を選択します。

- ・ English (標準値).....英語
- ・ Français.....フランス語

2 Security

■ BIOS Password

ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録／削除／変更します。

● User

ユーザーパスワードを登録すると、起動時のシステムへのアクセスを制限できます。ユーザーパスワードの登録／削除／変更は「東芝セッティング」で行うことを推奨します。

参照▶ 詳細について「本章 1 - 1 ユーザーパスワード」

- ・ Not Registered (標準値) ...ユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
- ・ Registeredユーザーパスワードが登録されているときに表示される

〈ユーザーパスワードを忘れてしまったとき〉

ユーザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

ユーザーパスワードの解除を依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

● Supervisor

スーパーバイザーパスワードを登録すると、セットアップへのアクセスを制限できます。スーパーバイザーパスワードの登録／削除／変更は「東芝セッティング」で行うことを推奨します。スーパーバイザーパスワードをBIOSセットアップで登録すると、操作が一部制限されます。

参照▶ 詳細について「本章 1 - 2 スーパーバイザーパスワード」

- ・ Not Registered (標準値) ...スーパーバイザーパスワードが登録されていないときに表示される
- ・ Registeredスーパーバイザーパスワードが登録されているときに表示される

〈スーパーバイザーパスワードを忘れてしまったとき〉

スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。スーパーバイザーパスワードの解除を依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

■ HDD/SSD Password

HDD/SSDのHDDユーザーパスワードやHDDマスターパスワードを登録／削除／変更します。

● Mode

* 対応しているモデルのみ表示されます。

HDD/SSDのHDDパスワードモードを設定します。

- ・ User Only (標準値)HDD/SSDのHDDユーザーパスワードのみを登録する
- ・ Master+User.....HDD/SSDのHDDマスターパスワードとHDDユーザーパスワードを登録する

● User

HDD/SSDのHDDユーザーパスワードを登録／削除／変更します。

参照▶ 詳細について「本章 **1** - **4** HDDパスワード」

- ・ Not Registered (標準値) ...HDDユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
- ・ Registered.....HDDユーザーパスワードが登録されているときに表示される

● Master

* 対応しているモデルのみ表示されます。

HDD/SSDのHDDマスターパスワードを登録／削除／変更します。

「Mode」が「Master + User」の場合のみ表示されます。

参照▶ HDDパスワードの設定方法「本章 **1** - **4** HDDパスワード」

- ・ Not Registered (標準値) ...HDDマスターパスワードが登録されていないときに表示される
- ・ Registered.....HDDマスターパスワードが登録されているときに表示される

■ Secure Boot

Secure Boot機能を設定します。

「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定した場合のみ表示されます。

- ・ DisabledSecure Boot機能を無効にする
- ・ Enabled (標準値).....Secure Boot機能を有効にする

● Clear Secure Boot keys

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。また、「Secure Boot」を「Disabled」に設定した場合のみ設定できます。

Secure Boot機能に関するキー情報を削除し、Secure Boot機能をセットアップモードにします。



メモ

- 「Boot Mode」を「CSM Boot」または「UEFI Boot (Legacy)」に設定している場合、「Secure Boot」は表示されません。
- 「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定している場合、「Secure Boot」を「Enabled」に設定すると、「Boot Mode」を変更できなくなります。
- 「Secure Boot」を「Enabled」に設定している場合、「Clear Secure Boot keys」は設定できません。

■ TPM

● Clear TPM Owner

* TPM搭載モデルのみ表示されます。

所有者登録とユーザー登録を削除します。

本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するというように、TPMの使用を中止する場合に行ってください。

①「Clear TPM Owner」をクリックして選択後、再度クリックする

お願い 操作にあたって

- 所有者登録とユーザー登録を削除すると、TPMに関するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザーが「TPM」を操作できないように設定することをおすすめします。

参照▶ 管理者以外のユーザーの制限について

「本章 **1** - **2** - **1** 東芝セッティングでの設定」

- 所有者登録とユーザー登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう一度TPMへ所有者登録やユーザー登録を行う必要があります。

● Hide TPM

* TPM搭載モデルのみ表示されます。

TPMの表示をシステム上で確認できないようにするときに使用します。

- ・ No（標準値）.....TPMをシステム上で確認できるようにする
- ・ YesTPMをシステム上で確認できないようにする

■ BIOS Access Rights

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対し、BIOSセットアップの設定の変更を制限することができます。

- ・ FullBIOSセットアップのすべての設定を変更できる
- ・ Restricted（標準値）.....変更できる設定が制限される
- ・ Read Only.....設定の表示のみで、変更はできない

■ Boot Menu

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対し、**F12** キーを使ったドライブの起動を制限することができます。

参照▶「本章 **2** 起動ドライブの変更」

- ・ Disabled (標準値) 無効にする
- ・ Enabled 有効にする

■ USB Provisioning of AMT

* AMT 搭載モデルのみ表示されます。

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

USB Provisioning 機能を設定します。

- ・ Disabled (標準値) 無効にする
- ・ Enabled 有効にする

■ Device Access Control / Device Boot Control

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対し、デバイスの使用やデバイスからの起動を制限することができます。

ENTER キーを押すと、画面が切り替わります。元の画面に戻るには **ESC** キーを押します。設定後は本製品の電源を切る必要があります。また、設定後にスーパーバイザー認証が必要になることがあります。

「東芝デバイスアクセスコントロール」でデバイスの使用やデバイスからの起動の制限を設定している場合、設定を変更するときも「東芝デバイスアクセスコントロール」で行ってください。

【Device Access Control】画面

デバイスごとに、使用制限を設定します。

- ・ Enabled (標準値) デバイスを使用可能にする
- ・ Disabled デバイスを使用禁止にする

【Device Boot Control】画面

デバイスごとに、デバイスからの起動制限を設定します。

すべてのデバイスからの起動を禁止にすることはできません。また、「Device Access Control」で「Disabled」に設定しているデバイスからの起動を可能にすることはできません。

- ・ Enabled (標準値) デバイスからの起動を可能にする
- ・ Disabled デバイスからの起動を禁止にする





3 PowerManagement

■ Critical Battery Wake-up

「Critical Battery Wake-up機能」を設定します。「Critical Battery Wake-up機能」とは、スリープ状態の間にバッテリーの残量が少なくなった場合、自動的に休止状態になり、データをSSDに保存します。

- ・ Enabled (標準値).....Critical Battery Wake-up 機能を有効にする
- ・ DisabledCritical Battery Wake-up 機能を無効にする

「Critical Battery Wake-up機能」を有効にするには、Windows上でも設定が必要です。次の操作を行って、設定してください。

- ① [スタート] ボタン () をクリックする
- ② [Windowsシステムツール] → [コントロールパネル] をクリックする
- ③ [ システムとセキュリティ] → [電源オプション] をクリックする
- ④ [プラン設定の変更] をクリックする
- ⑤ [詳細な電源設定の変更] をクリックする
- ⑥ [電源オプション] 画面の [詳細設定] タブで、[バッテリー] 左の  をクリックして展開する
- ⑦ [バッテリー切れの動作] 左の  をクリックして展開し、表示された項目で「バッテリー駆動」を [休止状態] に設定する
- ⑧ [OK] ボタンをクリックする

■ Power on by AC

本製品の電源を切っているときに、本製品に電源コードとACアダプターを接続して電源コードの電源プラグをコンセントに差し込むと、システムが自動的に起動できるように設定します。

- ・ Enabled有効にする
- ・ Disabled (標準値)無効にする

■ Dynamic CPU Frequency Mode

- ・ Dynamic Switch (標準値) ...CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替える
- ・ Always LowCPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にして本製品のバッテリー駆動時間を優先する

■ Core Multi-Processing

CPUの動作モードを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....Dual Coreモードに設定する
- ・ DisabledSingle Coreモードに設定する

■ Intel Turbo Boost Technology

* 対応しているCPUのみで表示されます。

インテル[®] ターボ・ブーストを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....有効にする
- ・ Disabled無効にする

■ Intel Display Power Management

* 対応しているCPUのみで表示されます。

Intel[®] Display Power Management を設定します。

- ・ Enabled (標準値).....有効にする
- ・ Disabled無効にする

■ SATA Interface setting

SATA デバイスの性能とバッテリー駆動時間の優先度を設定します。

- ・ Performance (標準値).....SATA デバイスの性能を優先する
- ・ Battery life.....バッテリー駆動時間を優先する

■ BIOS Power Management

OS以外の省電力機能を設定します。 **ENTER** キーを押すと、画面が切り替わります。元の画面に戻るには **ESC** キーを押します。

【BIOS Power Management画面】

■ Battery Save Mode

バッテリーセーブモードを設定します。

「Battery Save Mode」の設定項目は次のように表示されます。

	Full Power	Low Power	User Setting
Processing Speed	High	Low	項目ごとに設定を変更できます。
CPU Sleep Mode	Enabled	Enabled	
Cooling Method	High Performance	Power Saver	

「Battery Save Mode」の項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High.....処理速度を高速に設定する
- ・ Low.....処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled.....電力消費を低減する
- ・ Disabled.....電力消費を低減しない

● Cooling Method（熱制御方式）

本製品の熱をおさえる方法を設定します。本製品が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ High Performance.....本製品の処理能力を優先する
消費電力が増えた場合や、ファンを搭載している場合は積極的にファンを使用します。
- ・ Balanced.....本製品の処理能力と省電力のバランスをとる
- ・ Power Saver.....省電力を優先する
この場合、本製品の処理能力は低下します。

4 Advanced

■ Virtualization Technology

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーを設定します。

- ・ Disabled 使用しない
- ・ VT-x & VT-d (標準値) VT-x & VT-d 機能を有効にする
- ・ VT-x Only VT-x を有効にする
- ・ VT-d Only VT-d 機能を有効にする
(CPUによっては表示されない項目があります)

■ Trusted Execution Technology

* Trusted Execution Technology 対応 CPU 搭載モデルのみ表示されます。

Trusted Execution Technology を設定します。

Trusted Execution Technology とは、Virtualization Technology を使って TPM と連携させるセキュリティ技術です。

- ・ Enabled Trusted Execution Technology を許可に設定する
- ・ Disabled (標準値) Trusted Execution Technology を禁止に設定する

Trusted Execution Technology を許可に設定する場合、事前に「Advanced」メニューの「Virtualization Technology」を「VT-x & VT-d」に設定し、「Security」メニューの「TPM」を「Enabled」に設定し、「PowerManagement」メニューの「Core Multi-Processing」を「Enabled」に設定してください。

■ SW Guard Extensions (SGX)

インテル® ソフトウェア ガード エクステンションズ機能 (以下 SGX) を設定します。

- ・ Disabled 使用しない
- ・ Enabled 使用する
- ・ Software Controlled (標準値) SGX を使用するソフトウェアから設定する

■ Select Owner EPOCH input type

SGX で使用するキー情報を設定します。

- ・ No Change in Owner EPOCHs (標準値) キー情報を変更しない
- ・ Change to New Random Owner EPOCHs キー情報を自動生成で変更する
- ・ Manual User Defined Owner EPOCHs キー情報を手動で変更する*¹

* 1 「Manual User Defined Owner EPOCHs」を選択した場合、表示される「Software Guard Extensions Epoch 0」、「Software Guard Extensions Epoch 1」からキー情報を入力してください。

■ Beep Sound

Windows OS 以外でのビーブ音を設定します。

OFF、Low、Medium (標準値)、High のいずれかを選択できます。

■ USB Power in Off State

電源OFF、スリープ、休止状態でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給します。

- ・ Enabled有効にする
- ・ Disabled（標準値）.....無効にする

■ USB Legacy Emulation

USBキーボード、マウスなどのレガシーサポートを設定します。

USBレガシーをサポートをすると、ドライバーなしでUSBキーボード／USBマウスなどが使用できます。

- ・ Cold Boot only（標準値）.....通常の電源オン時のみレガシーサポートを行う
- ・ Always.....高速スタートアップ時を含め、常にレガシーサポートを行う

■ Change Boot Order

クリックして選択後、再度クリックすると、画面が切り替わります。

【Boot Priority Options画面】

システムを起動するディスクドライブの順番を [Move Up] ボタンまたは [Move Down] ボタンをクリックして設定します。設定終了後に [OK] ボタンをクリックしてください。

通常は次の順番（標準値）に設定してください。

- 1 Windows Boot Manager
- 2 HDD/SSD
- 3 USB Memory
- 4 USB ODD
- 5 FDD
- 6 LAN1
- 7 LAN2

■ System Configuration

ENTER キーを押すと、画面が切り替わります。元の画面に戻るには **ESC** キーを押します。

【System Configuration画面】

■ Wireless LAN

* 無線LAN機能搭載モデルのみ表示されます。

無線LANを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....使用する
- ・ Disabled使用しない*¹

* 1 「Disabled」を設定した場合、Windows上での無線通信機能のON/OFF設定はできなくなります。

■ Bluetooth

* Bluetooth[®]機能搭載モデルのみ表示されます。

Bluetooth[®]を設定します。

- ・ Enabled (標準値).....使用する
- ・ Disabled使用しない*¹

* 1 「Disabled」を設定した場合、Windows上での無線通信機能のON/OFF設定はできなくなります。

■ SD Host Controller

SDカードスロットを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....使用する
- ・ Disabled使用しない

■ Memory Performance Mode

メモリの使用方法を設定します。

- ・ Enabled (標準値).....バッテリー駆動時間よりシステム処理能力を優先させる
- ・ Disabledシステム処理能力よりバッテリー駆動時間を優先させる

■ Boot Mode

Boot Modeを設定します。

- ・ UEFI Boot.....Windows 10向けの起動モード
- ・ UEFI Boot (Legacy)UEFI対応でインストールされたWindows 7 (64bit) 向けの起動モード
- ・ CSM BootCSM BootでインストールされたWindows 7 (32bit/64bit) やUEFI Bootに対応していないOSで使用する起動モード



- 「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定している場合、「Security」メニューの「Secure Boot」を「Enabled」に設定すると、「Boot Mode」を変更できなくなります。

■ Boot Up NumLock Status

外付けUSBキーボードなどを使用している場合、起動時のテンキーの入力状態を設定します。

- ・ ON (標準値).....テンキーをNumeric Mode (ニューメリックモード) で起動し、テンキーの数字などの文字を入力できる状態にする (数字ロックモード)
- ・ OFF.....テンキーをArrow Mode (アローモード) で起動し、テンキーをカーソル制御キーとして使用できる状態にする (アローモード)

起動後は、OSの設定に従って入力状態が設定されます。

また、外付けUSBキーボードの **NUM LOCK** キーを押すことで、Numeric ModeとArrow Modeを切り替えます。



メモ

- 本設定は、すべての外付けUSBキーボードに対する動作を保証するものではありません。

■ Diagnostic

クリックして選択後、再度クリックすると、画面が切り替わります。

BIOSセットアップには戻れません。

【TOSHIBA Diagnostic 画面】

HDD/SSD Test

■ Start HDD/SSD Test

SSDのチェックを行います。

■ HDD/SSD Test Mode

SSDのチェック方法を選択します。

- ・ Simple Mode.....簡易的なチェックを行う
- ・ Full Mode.....標準的なチェックを行う
データ容量の大きさによっては数時間かかることがあります。

Memory Test

■ Start Memory Test

メモリのチェックを行います。

Exit

■ Exit TOSHIBA Diagnostic

Diagnosticを終了します。

5 Exit

■ Exit Saving Changes

変更を保存してBIOSセットアップを終了します。

■ Exit Discarding Changes

変更を保存しないでBIOSセットアップを終了します。

各種パスワード、TPM、「Main」メニューの「System Time」と「System Date」の各設定については、変更前の状態に戻りません。

■ Load Setup Defaults

すべての設定項目を標準値にします。

各種パスワードなど一部の設定については、標準値に戻りません。

■ Save Changes and Power Off

変更を保存して本製品の電源を切ります。

7章

システム環境を設定する

***指紋センサー搭載モデルのみ**

「指紋センサー」が搭載されているモデルの場合、「Windows Hello」を使用して、指紋を登録し、指紋認証でWindowsへサインインを行うことができます。

指紋認証の操作にあたっては、次の項目に書かれている注意事項を確認してください。

お願い 指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 6 指紋認証について」

- 登録できる指紋データは全ユーザー合わせて最大20本です。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報を本製品に登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。指紋認証を使用するには、使用するユーザーにWindowsパスワードを設定したうえで、「Windows Hello」で指紋の登録が必要です。

参照▶ 指紋の登録「本節 3 指紋を登録する」


指紋を登録すると、キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサーに当てるだけで、Windowsサインインを実行できます。

参照▶ 認証方法「本節 4 指紋認証を行う」

2 Windowsパスワードを設定する

「Windows Hello」で指紋の登録をするためには、「Windowsパスワード」を設定する必要があります。Windowsパスワードの設定は「サインイン オプション」で行います。

Windowsパスワードを設定していない場合は、設定してください。

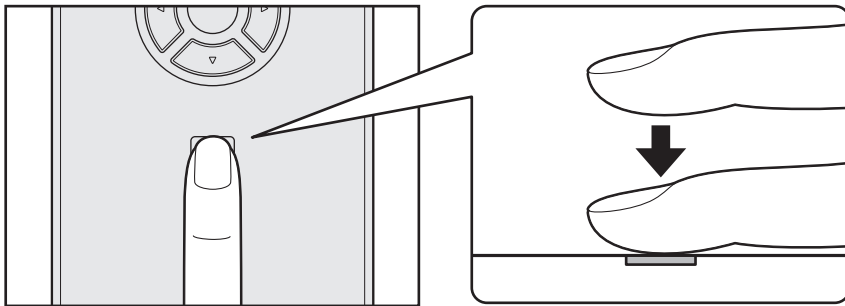
サインイン オプションについては、タスクバーの検索ボックス () で、「サインイン オプション」と入力して検索してください。

すでにWindowsパスワードを設定してある場合は、「本節 3 指紋を登録する」に進んでください。

3 指紋を登録する

指紋センサーに指紋をうまく読み取らせるには

- 1** 指紋センサーに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、指紋センサーの中央に当て、離す




1 登録方法

「Windows Hello」で指紋を登録するには、あらかじめ使用するユーザーに対してWindowsパスワードとPINの設定が必要です。

ここでは、PINの設定→指紋の登録の順に説明します。

7章

システム環境を設定する

- 1** 指紋を登録するユーザーアカウントでサインインする
- 2** [スタート] ボタン () をクリックする
- 3** [設定] をクリックする
- 4** [アカウント] → [サインイン オプション] をクリックする
- 5** [PIN] の [追加] をクリックする
[最初に、アカウントのパスワードを確かめてください。] 画面が表示されます。
- 6** [パスワード] にWindowsパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
[PINのセットアップ] 画面が表示されます。
- 7** [新しいPIN] に設定したい数字を入力する
PINには、4桁以上の数字を設定してください。
- 8** [PINの確認] に、手順 **7** と同じ数字を入力し、[OK] ボタンをクリックする

9 引き続き [サインイン オプション] で、[Windows Hello] の [指紋認証] の [セットアップ] をクリックする

[Windows Hello セットアップ] 画面が表示されます。

10 [開始する] をクリックする

[ユーザーを確認しています] 画面が表示されます。

11 [PIN] にPINを入力する

[指紋センサーで指をスワイプ] 画面または [指紋センサーにタッチ] 画面が表示されます。

12 指紋センサーに指を当て、離す

参照▶「本項 - 指紋センサーに指紋をうまく読み取らせるには」

指紋は数回スキャンする必要があります。[次は別の角度で行ってください] 画面が表示された場合は [次へ] をクリックし、[すべて完了しました。] 画面が表示されるまでスキャンしてください。

13 [すべて完了しました。] 画面が表示されたら、[閉じる] をクリックする **メモ**

- 続けてほかの指紋を追加する場合
 - ① [別の指を追加] をクリックする
 - ② 手順 **12** からの操作を繰り返す
- [閉じる] をクリックして登録を終了後、ほかの指紋を追加する場合
 - ① [サインインオプション] で [他の指紋を追加] をクリックする
 - ② 手順 **10** からの操作を繰り返す

4 指紋認証を行う

指紋を登録すると、指紋センサーに指を当てることで、Windowsへサインインできます。

お願い 指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

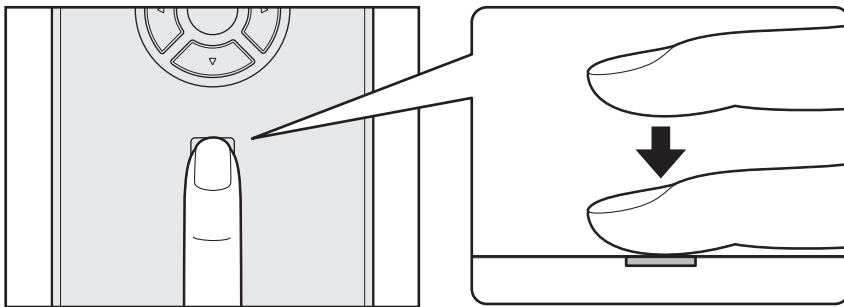
参照 「付録 5 - 6 - 指紋認証のパスワード入力について」

1 認証方法

1 本体の電源を入れる

ロック画面（画面左下に大きく日時が表示されている状態）が表示されます。

2 指紋センサーに指を当て、離す



認証されるとメッセージが表示されます。
Windowsにサインインします。


2 その他について

ユーザーパスワードの指紋認証に続けて5回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力して本製品を起動してください。また、指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は **BACKSPACE** キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

モデルによっては、設定後2回目以降の起動から、起動認証が動作します。

本製品を捨てるまたは人に譲る場合

本製品を捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。指紋データの消去は、次のように行ってください。

- ① [スタート] ボタン () → [設定] をクリックする
- ② [アカウント] → [サインイン オプション] をクリックする
- ③ [指紋認証] の [削除] をクリックする

お願い 指紋データの消去にあたって

- 指紋データは、ユーザー（アカウント）ごとの消去が必要です。

6

TPM を使う

* TPM搭載モデルのみ

1 TPM とは

TPM (Trusted Platform Module) は、Trusted Computing Group (TCG) が策定した仕様に準拠して、暗号鍵の管理などのセキュリティ関係の処理を行うICで、セキュリティチップとも呼ばれます。

Windows 10 Proのドライブ暗号化機能であるBitLockerなど、TPMに対応したセキュリティ機能を利用する際に使用するものです。

お願い TPMの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 詳細について「付録 **5** - **7** TPMについて」

7章

システム環境を設定する

8章

■ 本製品の動作がおかしいときは

本製品の操作をされていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

本書のほかに、『取扱説明書』でもトラブルが発生したときの解決手順について説明しています。

1

本製品を診断し、トラブルを解決する

「東芝サービスステーション」には、ハードウェアの状態を診断する「診断ツール」や、発生する問題を特定し、解決することを支援する「トラブルシューティング」の機能があります。

インストールについて

「東芝サービスステーション」は、購入時の状態ではインストールされていないので、ご使用の際はあらかじめインストールしてください。

参照 ▶ インストール方法「6章 3 アプリケーションをインストールする」

「東芝サービスステーションのご利用にあたって」画面が表示された場合は、内容をよく確認のうえ、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをクリックしてください。

1 本製品を診断する

「診断ツール」の機能で、本製品のハードウェアに調子の悪いところはないかを、診断することができます。

1 起動方法

1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [TOSHIBA] → [サービスステーション] をクリックする

「東芝サービスステーション」が起動します。

3 画面左側から [診断ツール] をクリックする



(表示例)


4 診断したい項目をクリックする

以降は画面の指示に従って操作してください。

2 トラブルを解決する

「トラブルシューティング」の機能で、本製品に発生する問題を特定し、解決することを支援します。

1 起動方法

- 1 [スタート] ボタン () をクリックする
- 2 [TOSHIBA] → [サービスステーション] をクリックする
「東芝サービスステーション」が起動します。
- 3 画面左側から [トラブルシューティング] をクリックする
- 4 確認したい項目をクリックする
以降は画面の指示に従って操作してください。

役立つ操作集

詳細オプション

- このほか、OSに搭載されている「トラブルシューティング」に、「詳細オプション」が用意されています。「詳細オプション」は、Windowsが正常に起動しなくなった場合に、問題を解決して起動できるようにするメニューが集まったものです。「システムの復元」機能もあります。次の手順で起動します。
 - ① データを保存し、**SHIFT**キーを押しながら [シャットダウン] をクリックして電源を切る
 - ② 電源スイッチを押し、すぐに **0** (ゼロ) キー (かな入力の **㊿** キー) を数回押す
「The Hard Drive Recovery Process has been selected.」などから始まるメッセージが表示された場合は、手順③に進んでください。
[オプションの選択] 画面が表示された場合は、手順④に進んでください。
 - ③ 「Yes」(「YES」) または「はい」を選択して、**ENTER** キーを押す
[オプションの選択] 画面が表示されます。
 - ④ [トラブルシューティング] をクリックする
[トラブルシューティング] 画面が表示されます。
 - ⑤ [詳細オプション] をクリックする
[詳細オプション] 画面が表示されます。
 - ⑥ 使いたいメニュー名をクリックする
以降は画面の指示に従って操作してください。

トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
ここに掲載しているQ&A集のほかに、『取扱説明書』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『取扱説明書』も参照してください。

1 システム/SSD

Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない

A アプリケーションをインストールしてから、この問題が発生するようになった場合は、インストールしたアプリケーションがWindowsの動作に影響している可能性があります。

アプリケーションをアンインストールしてください。

参照 ▶ 『アプリケーションのヘルプ』

A 周辺機器を接続してから、この問題が発生するようになった場合は、接続した周辺機器がWindowsの動作に影響している可能性があります。

周辺機器を取りはずしてください。周辺機器によっては、周辺機器に付属のドライバーやアプリケーションを本製品にインストールしている場合があります。これらのドライバーやアプリケーションもアンインストールしてください。

参照 ▶ 周辺機器の取り扱いについて『周辺機器に付属している説明書』

2 TPM

* TPM搭載モデルのみ

Q TPMを使用している本製品を、修理・保守に出したい

A TPMを使用している場合、修理・保守に出す前に、バックアップしてください。なお、修理・保守に出すと、TPMに故障がなくても、TPMが交換される場合があります。修理・保守については、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

参照 ▶ 修理のお問い合わせについて『取扱説明書 2章 4 サービス&サポートのご案内』

3 メッセージ

Q パスワード (Password) の入力をうながすメッセージが表示された

A▶ パスワードの入力による認証が必要です。
次の操作を行ってください。

■方法1

① パスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

■方法2

① あらかじめ「東芝セッティング」の「システムパスワード」でパスワードファイルを作成してある場合は、パスワードファイルで確認したパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

パスワードを入力するときは、CAPS LOCK (キャプスロック) やNUM LOCK (数字ロック) などが、パスワード設定時と同じ状態になっていることを確認してください。

パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種 (型番) を確認後、次のサポート窓口に連絡してください。

- ・ Windowsパスワードを忘れたとき : 東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口
- ・ その他のパスワードを忘れたとき : 東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口

モデルによってはSSDにHDDパスワードを設定できますが、HDDパスワードを忘れてしまった場合は、SSDは永久に使用できなくなりますので、有料にてSSDを交換します。「その他のパスワード」の場合は、有料にてパスワードを解除します。その際、パスワードの種類によっては、お客様のデータが失われる場合があります。

またどちらの場合も、身分証明書 (お客様自身を確認できる物) の提示が必要となります。

参照▶ パスワードの詳細「7章 1 パスワードセキュリティ」

4 その他

Q SSDから本製品を初期状態に戻せなくなったときは

A▶ SSDに搭載されている初期状態に戻すためのツール（システムを復元するためのもの）のデータが破損、もしくは誤って消去されている可能性があります。また、市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、本製品を初期状態に戻せなくなることがあります。

「東芝リカバリーメディアクリエーター」で作成したリカバリーメディア、または付属のリカバリーDVD-ROM(付属しているモデルのみ)を使って、リカバリーしてください。

参照▶ リカバリーの操作方法「9章 本製品を再セットアップするには」

リカバリーメディアがない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談ください。

参照▶ 修理のお問い合わせについて『取扱説明書 2章 4 サービス&サポートのご案内』

Q 異常なおいや過熱に気づいた！

A▶ 本製品、周辺機器の電源を切り、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。安全を確認し、バッテリーパックを本体から取りはずしてから東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

なお、お問い合わせの際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照▶ 修理のお問い合わせについて『取扱説明書 2章 4 サービス&サポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A▶ 「トラブルを解消するまでの流れ」を確認してください。

「トラブルを解消するまでの流れ」では、トラブルを解決するための対処手順を説明しています。ご確認ください。

参照▶ 『取扱説明書 2章 1 トラブルを解消するまでの流れ』

A▶ 本製品のトラブルの場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

A▶ OSやアプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照▶ OSやアプリケーションのお問い合わせ先「付録 1 お問い合わせ先」

A▶ 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照▶ 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属している説明書』

Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A▶ 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対する本製品の方向を変える
- 本製品をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに変える



9章

■ 本製品を再セットアップするには

この章では、本製品の動作がおかしくなり、いろいろなトラブル対処方法を試しても解決できなかったときに行う、本製品のリカバリーについて説明します。

1

本製品の調子がおかしいときは

本製品の動作がおかしいと感じたときは、次の方法を実行してください。

次の方法を実行してみる

■ ウィルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する

ウイルスが検出されたら、ウイルスチェックソフトで駆除できます。

■ 周辺機器をすべて取りはずし、再度確認する

購入後に追加で増設した機器が原因の可能性があるので、それらを取りはずしてから、再起動してください。また、電源関連のトラブルの場合は、本製品の電源を切り、電源コードとACアダプター、バッテリーパックをいったん取りはずし、再度取り付けてから起動し直してください。

参照 ▶ 機器の取りはずし「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

■ ほかのトラブル解消方法を探す

「7章 本製品の動作がおかしいときは」を確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。

■ システムの復元で以前の状態に復元する

「システムの復元」は、本製品に問題が発生したときに、個人用のデータを失わずに本製品を以前の状態に復元するための機能です。

参照 ▶ 詳細オプション「8章 **1** - **2** - **1** - 役立つ操作集」



メモ

- 購入時にプレインストールされていたアプリケーションやドライバーを誤って削除してしまった場合は、アプリケーションやドライバーの再インストールを行うことをおすすめします。

参照 ▶ 「6章 **3** アプリケーションをインストールする」

それでも改善しない場合

個人用ファイルを保持して、初期状態に戻す（回復）

OSに搭載されているトラブルシューティングのツールを使用すると、おもな個人用ファイルを消去せずに、本製品を初期状態に戻すことができます。

タスクバーの検索ボックス（）で、「初期状態に戻す」と入力して検索してください。

それでも改善しない場合

本製品を初期状態に戻す（リカバリー）

個人データ、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などすべてを消去して、本製品を初期状態に戻します。大切なデータは、あらかじめバックアップしてください。

参照▶ 「本章 **2** 本製品を初期状態に戻す」
巻末の「リカバリーチェックシート」

本製品を初期状態に戻す（リカバリー）とは、お客様が作成したデータや、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などをすべて削除し、もう一度ご購入時の状態に復元することです。SSD内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

次のような場合で、どうしても改善する方法がないときにリカバリーをしてください。

- 本製品の動作が非常に遅くなった
- 周辺機器が使えなくなった
- SSDにあるシステムファイルを削除してしまった
- コンピューターウイルスやスパイウェアなどに感染し、駆除できない*¹
- 本製品の調子がおかしく、いろいろ試したが解消できない
- 東芝PC あんしんサポートに相談した結果、「リカバリーが必要」と診断された

*¹ ウイルスチェックソフトが正常に起動できない場合など、状態によってはウイルスチェックができない場合があります。

一度リカバリーを始めると、途中で中止したり、本製品の電源を切ることができません。リカバリーには時間がかかりますので、時間の余裕をもって行ってください。

お願い

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリーができなくなることがあります。
- リカバリーは、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。誤ってほかの人にリカバリーを実行されないよう、ユーザーパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザーパスワード「7章 システム環境を設定する」

1 本製品を初期状態に戻す（リカバリー）流れ

リカバリーをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

初期状態に戻す前に行う

バックアップをとる など 参照▶「本節 2 本製品を初期状態に戻す前にしておくこと」

初期状態に戻す（画面の指示に従い、Windows セットアップまで行います）

初期状態に戻す

参照▶「本節 3 いくつかある初期状態に戻す方法」
「本節 4 SSDから本製品を初期状態に戻す」
「本節 5 リカバリーメディアから本製品を初期状態に戻す」

Windows のセットアップ 参照▶「取扱説明書 1 章 3 Windows を使えるようにする」

初期状態に戻したあと、必要に応じて行う

周辺機器の接続

参照▶「4 章 周辺機器を使って機能を広げよう」
「各機器に付属している説明書」

ウイルスチェックソフトの
利用の開始

参照▶「ウイルスチェックソフトに付属している説明書」

インターネットの設定

参照▶「3 章 インターネットやネットワークに接続する」

ウイルスチェックソフトの
パターンファイルの更新

参照▶ ウイルスチェックソフトのヘルプ

Windows Update

参照▶「1 章 使いはじめる前に」

東芝サービスステーションで
ソフトウェアのアップデート

参照▶「1 章 使いはじめる前に」

メールの設定

参照▶「メールソフトに付属している説明書」

アプリケーションの
インストールと設定

参照▶「アプリケーションに付属している説明書」

データの復元

参照▶「本節 6 - バックアップしておいたデータを復元する」

2 本製品を初期状態に戻す前にしておくこと

リカバリーをはじめる前に、次の準備と確認を行ってください。

準備するもの

- リカバリー手順と、巻末の「リカバリーチェックシート」を印刷したもの
- リカバリーメディア（あらかじめ作成してあるリカバリーメディアからリカバリーする場合）
- リカバリーDVD-ROM（付属しているモデルの場合）
- USBハブ（市販品）*¹

* 1 USBフラッシュメモリや外付けのDVD／ブルーレイディスクを本製品に接続する場合、USBハブ（市販品）が必要です。ただし、すべてのUSBハブの動作を保証するものではありません。
USBハブは、本製品のUSBコネクタに接続してください（USBハブは、USB Type-C™アダプターのUSBコネクタに接続しないでください）。

- 外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）*²

* 2 DVD／ブルーレイディスクのリカバリーメディアを使用する場合、外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）が必要です。
ただし、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

本製品を初期状態に戻すときは、ファンクションキーが搭載されたキーボードをご用意ください。

*ただし、すべてのキーボードの動作を保証するものではありません。

必要なデータのバックアップをとる

リカバリーをすると、購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションなど、SSDに保存していた内容は削除されて、設定が初期化されます。次のようなデータは削除されますので、可能な場合は、記録メディア（CD／DVDやUSBフラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。

- [ドキュメント]（または [マイ ドキュメント]）、[ピクチャー]（または [マイ ピクチャー]）などのデータ
- 購入後にデスクトップに保存したデータ
- インターネットの [お気に入り] のデータ
- メール送受信データ
- メールアドレス帳
- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- 購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
- 購入後に作成したフォルダーとファイル

ただし、SSDをフォーマットしたり、システムファイルを削除した場合は、バックアップをとることができません。また、リカバリーを行っても、SSDに保存されていたデータは復元できません。

指紋データを消去する

* 指紋センサー搭載モデルのみ

指紋センサー搭載モデルの場合、本製品を初期状態に戻すと、戻す前の指紋データが使用できなくなります。

(アカウント名を同じ名称にしても、指紋データは継承されません。)

また、初期状態に戻してしまうと、戻す前の指紋データの削除もできなくなります。

必ず、指紋データを消去してください。

指紋データは、ユーザー（アカウント）ごとの消去が必要です。

アプリケーションのセットアップ用記録メディアを確認する

購入後に追加でインストールしたアプリケーション、プリンターなどの周辺機器のドライバーは、リカバリー後に再度インストールする必要があります。これらをインストールするための記録メディア（microSDメモ리카ード、CDなど）が、お手元にあることを確認してください。また、アプリケーションによっては、ID番号などが必要です。あらかじめ確認してください。

各種設定を確認する

インターネットやLANの設定、Windowsサインイン時のアカウント名などの設定項目を控えておいてください。ウイルスチェックソフトなど、セットアップ時に認証キーの入力が必要なアプリケーションは、認証キーの番号を控えておいてください。設定項目や認証キーの番号などの確認方法は、各アプリケーションのヘルプを参照するか、サポート窓口にお問い合わせください。

その他、必要に応じて、アプリケーションの設定を控えておいてください。

無線通信機能がONであるか確認する

無線通信機能がONであることを確認してください。

ONになっていない場合は、ONに切り替えてください。

① 通知領域の  アイコンをクリックする

② 【機内モード】をOFFに設定する

【機内モード】をクリックするたびに、無線通信機能のON/OFFが切り替わります。

【機内モード】をOFFにするとアイコンがグレー表示になり、無線通信機能がONになります。

周辺機器を取りはずす

プリンターなどセットアップに不要な周辺機器は取りはずしてください。このとき、本製品の電源を切ってから行ってください。

参照 機器の取りはずし「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

3 いくつかある初期状態に戻す方法

リカバリーには、次の方法があります。

- SSDからリカバリーをする
- リカバリーメディアからリカバリーをする


通常はSSDからリカバリーをしてください。

リカバリーメディアからのリカバリーは、SSDのリカバリーツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、SSDからリカバリーができなかった場合などに行うことをおすすめします。

リカバリーDVD-ROMが付属していない場合は、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 ▶ リカバリーメディアの作成「1章 3 リカバリーメディアを作る」

メモ



- Windows 10の回復機能を使って、本製品を初期状態に戻すには、① [スタート] ボタン () をクリック→② [設定] → [更新とセキュリティ] → [回復] をクリックしてください。
回復機能でリカバリーを実行すると、「東芝リカバリーメディアクリエーター」によるリカバリーメディアの作成ができなくなります。回復機能を実行する前に、「東芝リカバリーメディアクリエーター」でリカバリーメディアを作成してください。


4 SSDから本製品を初期状態に戻す

* 本マニュアルを参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

リカバリーは、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。

メモ

- 記録メディアをセットしていない状態で実行してください。セットされていると、エラーになる場合があります。
- [キャンセル] ボタンが無い画面で操作を中断したい場合は、[オプションの選択] 画面が表示されるまで  ボタンをクリックし、[PCの電源を切る] ボタンをクリックしてください。
 ボタンが表示されていない場合は、[キャンセル] ボタンが表示されるまで操作を進めてから [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

- ① データを保存し、 キーを押しながら [シャットダウン] をクリックして電源を切る
参照 ▶ 電源の切りかた「2章 1 - 2 電源を切る」
- ② 電源コードとACアダプターを接続する

③ 電源スイッチを押し、すぐに **0** (ゼロ) キー (かな入力の **わ** キー) を数回押す

* テンキーを搭載したキーボードの場合でも、テンキーの **0** (ゼロ) キーからは実行できません。

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

「The Hard Drive Recovery Process has been selected.」などから始まるメッセージが表示された場合は、手順④に進んでください。

「オプションの選択」画面が表示された場合は、手順⑤に進んでください。

④ 「Yes」 (「YES」) または 「はい」 を選択して、 **ENTER** キーを押す

「オプションの選択」画面が表示されます。

⑤ 「トラブルシューティング」 をクリックする

「トラブルシューティング」画面が表示されます。

⑥ 「TOSHIBA Maintenance Utility」 をクリックする

「ツールの選択」画面が表示されます。

⑦ 「TOSHIBA Recovery Wizard」 をチェックし、 [次へ] ボタンをクリックする

警告メッセージ画面が表示されます。

⑧ 画面の内容を確認し、 [はい] ボタンをクリックする

⑨ 「初期インストールソフトウェアの復元」 をチェックし、 [次へ] ボタンをクリックする

「ハードディスク上の全データの消去」は、本製品を廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、SSDのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、SSD上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 『取扱説明書 2章 3 捨てるとき/人に譲るとき』

「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

⑩ [次へ] ボタンをクリックする

処理が開始され、[しばらくお待ちください。]画面が表示されます。

画面は、リカバリーの経過に従い切り替わります。

長い時間、同じ画面が表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

⑪ [終了] ボタンをクリックする

セットアップ画面が表示されるまで、何も操作する必要はありません。そのまましばらくお待ちください。

この間は絶対に電源を切らないでください。

⑫ セットアップ画面が表示されたら、Windowsのセットアップを行う

参照 Windowsセットアップ『取扱説明書 1章 3 Windowsを使えるようにする』

5 リカバリーメディアから本製品を初期状態に戻す

* 本マニュアルを参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

リカバリーは、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。

リカバリーDVD-ROMが付属していない場合、リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 ▶ リカバリーメディアの作成「1章 3 リカバリーメディアを作る」

あらかじめ、次の準備を行ってください。

- USB フラッシュメモリまたは外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を使用してリカバリーする場合は、あらかじめUSBハブ（市販品）を、本製品のUSBコネクタに接続してください（USBハブは、USB Type-C™アダプターのUSBコネクタに接続しないでください）。

参照 ▶ 接続方法「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

* ただし、すべてのUSBハブまたは外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

メモ

- 操作を中断したい場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

① 電源コードとACアダプターを接続する

② リカバリーメディアをセットする

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、1枚目からセットしてください。

参照 ▶ 外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブの使用方法
『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

③ データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら**[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた「2章 1 - 2 電源を切る」

④ 電源スイッチを押し、すぐに**[F12]** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して**[ENTER]** キーを押してください。

⑤ **[↑]** または **[↓]** キーで起動ドライブを選択する

リカバリーメディアがDVD／ブルーレイディスクの場合は外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブを示す項目（[USB ODD] など）、リカバリーメディアがUSBフラッシュメモリの場合はUSBフラッシュメモリを示す項目（[USB Memory] など）を選択し、**[ENTER]** キーを押してください。

「TOSHIBA Recovery Wizard」か「システム回復オプション」かを選択する画面が表示されます。

⑥ **[TOSHIBA Recovery Wizard]** をチェックし、**[次へ]** ボタンをクリックする

警告メッセージ画面が表示されます。

⑦ 画面の内容を確認し、**[はい]** ボタンをクリックする

⑧ [初期インストールソフトウェアの復元] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[ハードディスク上の全データの消去] は、本製品を廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、SSDのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、SSD上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 ▶ 『取扱説明書 2章 3 捨てるとき/人に譲るとき』

「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

⑨ [次へ] ボタンをクリックする

処理が開始され、[しばらくお待ちください。] 画面が表示されます。

画面は、リカバリーの経過に従い切り替わります。

長い時間、同じ画面が表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、メディアを入れ替えるメッセージが表示され、リカバリーメディアを取り出せる状態になります。メディアの番号順に入れ替え、[OK] ボタンをクリックしてください。

処理が完了すると、終了画面が表示されます。

⑩ リカバリーメディアの種類により次の操作を行う

■ DVD/ブルーレイディスクの場合

1. [終了] ボタンをクリックする
自動的にリカバリーメディアを取り出せる状態になります。
2. リカバリーメディアを取り出す

■ USBフラッシュメモリの場合

1. USBフラッシュメモリを取りはずす
2. [終了] ボタンをクリックする

再び画面が切り替わります。

セットアップ画面が表示されるまで、何も操作する必要はありません。そのまましばらくお待ちください。

この間は絶対に電源を切らないでください。

⑪ セットアップ画面が表示されたら、Windowsのセットアップを行う

参照 ▶ Windowsセットアップ『取扱説明書 1章 3 Windowsを使えるようにする』

6 本製品を初期状態に戻したあとは

周辺機器の接続、ウイルスチェックソフトの設定や更新を行ってください。

インターネットの設定は、プロバイダーから送られてきた書類や、お客様ご自身で控えておいた設定情報を元に、行ってください。

その他必要に応じて、メールの再設定、購入後に追加したアプリケーションのインストール、データの復元などを行ってください。

参照▶ 詳細について「本節 **1** 本製品を初期状態に戻す（リカバリー）流れ」



- 一部のアプリケーションは、リカバリー後に再インストールをする必要があります。

参照▶ 「6章 **3** アプリケーションをインストールする」

バックアップしておいたデータを復元する

バックアップをとっておいたデータを使いたい場合は、バックアップした記録メディアからデータを読み込んでください。

アプリケーションによってバックアップ方法や復元方法が用意されている場合は、その方法に従って復元してください。

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記載しています。

1

お問い合わせ先

－ OS / アプリケーション －

本製品に用意されているOS、アプリケーションのお問い合わせ先を紹介しています。
各アプリケーションを使っていて困ったときは、こちらに連絡してください。

* 2018年4月現在の内容です。

各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

1 OSのお問い合わせ先

Windows 10に関する一般的なお問い合わせ先は、東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口になります。

Windows 10に関する一般的なサポート情報は、以下のホームページでもご確認いただくことができます。

<http://support.microsoft.com>

2 アプリケーションのお問い合わせ先

各アプリケーションのユーザー登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。用意されているアプリケーションはご購入のモデルにより異なります。

ウイルスバスター クラウド™ 90日版

ウイルスバスター™ サービスセンター

受付時間 : 9:30~17:30
 TEL : 0570-008326
 03-6738-6062 (IP電話・光電話からのお問い合わせ)
 E-mail : <http://tmqa.jp/r924/>
 ホームページ : <http://tmqa.jp/toshiba/>

i-フィルター®

デジタルアーツ株式会社 サポートセンター

受付時間 : 10:00~18:00
 (デジタルアーツ指定休業日を除く)
 TEL : 0570-00-1334
 E-mail : p-support@daj.co.jp
 ホームページ : 【お問い合わせTOP】 <http://www.daj.jp/cs/support/multidevice/>
 【お問い合わせフォーム】 http://www.daj.jp/ask_md/
 月額版をお申し込みの場合、お申し込み初月が無償となります。

その他のアプリケーション

※ 本製品を購入後に追加したアプリケーションに関しては、製造元各社へお問い合わせください。

東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口

[固定電話から] **0120-97-1048** (通話料無料)

[携帯電話から] **0570-66-6773** (通話料お客様負担)

海外からのお電話や一部のIP電話などで、上記電話番号をご利用になれない場合は、**043-298-8780** (通話料お客様負担) へおかけください。
※電話番号はお間違えないよう、ご確認のうえおかけください。

[受付時間] 9:00～19:00 (年中無休)

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。
日程は、サポートサイト (http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm)
にてお知らせいたします。

[ご注意]

1. お問い合わせの前に、お買い上げの製品を東芝ID (TID) にご登録ください。
使いかた相談窓口のご利用には、東芝ID (TID) へのご登録 (お客様登録) が必要です。

参照▶ 東芝ID (TID) への登録方法「付録 3 お客様登録の手続き」

2. ご購入日から5年経過後のお問い合わせは有料です。
ご購入日から5年間、サポート料金は無料でお問い合わせいただけます。ご購入日から5年経過後のご利用は有料になります。
 - ・ご購入日から5年以内のサポート料金 : 無料
 - ・ご購入日から5年経過後のサポート料金: 1件あたり 2,000円 (税抜き、予定価格)
1件はお電話での回数ではなく、1つのご質問内容を1件といたします。1回のお電話の中に複数ご質問が含まれる場合、ご質問内容ごとに料金がかかります。
お電話をいただいた際には、まずご質問の概要を確認後、必ず料金を事前に提示させていただきお客様のご同意をいただいたうえでサービスを提供させていただきます。
なお、詳細は、有料サポート開始前に、ホームページ上でご案内いたします。
3. お電話いただく際には、「発信者番号通知」をお願いいたします。
4. おかけいただくと、ガイダンスが流れます。ガイダンスに従って操作してください。
使いかた相談窓口は、ガイダンスの後で **[*] [1]** をプッシュしてください。

お客様の個人情報の取り扱い全般に関する当社の考えかたをご覧になりたいかたは、当社の個人情報保護方針のページ (<http://www.toshiba-tcs.co.jp/privacy.html>) をご覧ください。

1 日常の取り扱いとお手入れ

『取扱説明書』の「安全上のご注意」、「ご使用上のお願い」に、日常の取り扱いとお手入れをするときに守ってほしいことが記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、指示を守ってください。

日常の取り扱いでは、次のことも守ってください。

本体および付属品について

- 『取扱説明書』の「安全上のご注意」、「ご使用上のお願い」に、本体、ACアダプター、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
あらかじめその記述をよく読んで、指示を守ってください。
- 機器の汚れは、柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。
中性洗剤、揮発性の有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- 可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。
- 使用できる環境は次のとおりです。^{*1}
温度5～35℃、湿度20～80%
^{*1} 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。
- 高温になる場所や湿度の高い場所には置かないでください。
- 水をかけたり、湿気の多いものの上に置かないでください。
- 落としたり、衝撃を与えないでください。
- 分解しないでください。
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカーなどの近く）／ほこりの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体やACアダプターが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- ケーブル類は折り曲げたり、巻き付けたりしないでください。故障の原因となることがあります。
- 電源プラグを長期間にわたってコンセントに接続したままにしていると、電源プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりをふき取ってください。

2 アフターケアについて

修理サービスについて

修理サービスのご相談は、東芝PCあんしんサポートまたは保守サービスへお問い合わせください。

参照▶『取扱説明書 2章 4 サービス&サポートのご案内』

詳しくは、本製品の各種説明書をご覧ください。

修理や点検の際に、SSDの交換、初期インストール作業（標準出荷状態）など、お客様が記憶装置内に記録されたデータやインストールされたソフトウェアは消去される場合があります。必ず、定期的にまたは修理や点検を依頼される前に、バックアップをとり、重要な内容は紙などに控えておいてください。

また、各種パスワード（指紋認証を含む）を設定している場合は、パスワードを削除してから修理や点検を依頼してください。パスワードが設定されたまま修理を依頼すると、修理を行えない場合があります。

記録内容が変化・消失したことによる損失・損害などの請求につきましては、いっさいその責任を負いかねます。

有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）などの条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日に約8時間、1ヵ月で25日のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、24時間を超えるような長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換（有料）が必要となります。

□対象品名

ソリッドステートドライブ（SSD）、冷却用ファン*¹、ACアダプター

* 1 搭載されているモデルが対象です。

一般社団法人電子情報技術産業協会「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について

http://home.jeita.or.jp/page_file/20110511155520_FuLZW1JpDj.pdf

消耗品について

□バッテリーパック

バッテリーパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。

充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパックと交換してください。

参照▶ バッテリーパックの購入について『取扱説明書 2章 4 サービス&サポートのご案内』

参照▶ バッテリーパックの交換方法『取扱説明書 1章 5 バッテリーについて』

■ 付属品について

付属品（バッテリーパック・ACアダプターなど）をお買い求めになる場合は、「東芝PCあんしんサポート」にご相談ください。

■ ハードウェアの保証とアフターサービスについて

□ 修理について

【 無料修理（保証修理） 】

各種説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きに記載された正常なご使用をされている場合であって、お買い上げ日から保証期間中に故障したときに、保証書に記載の「無料修理規定」に従い、ハードウェアの無料修理をいたします（詳しくは、保証書に記載の「無料修理規定」をご覧ください）。

【 有料修理 】

「保証書」に記載の保証期間が終了している場合、または、保証書に記載の「無料修理規定」の範囲外の作業（詳しくは、保証書に記載の「無料修理規定」をご覧ください）については、有料修理をいたします。

参照▶ 修理依頼『取扱説明書 2章 4 サービス&サポートのご案内』

□ 部品について

【 部品の交換について 】

保守部品（補修用性能部品）は、機能・性能が同等な新品部品あるいは新品と同等に品質保証された部品（再利用部品）を使用し、故障した部品と交換します。なお、有料修理でユニット修理を適用した場合および無料修理の交換元（取りはずした）部品の所有権は、当社または当社の認める各保守会社に帰属します。

【 保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間 】

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から6年6ヵ月です。

□ 最新情報について

東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」では、常に最新のサポート情報を提供しています。定期的に最新情報をご確認ください。

サポート情報：http://www.dynabook.com/assistpc/index_j.htm

3 無線LANやインターネットの使用に関するお願い

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です!)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

・不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

個人情報や機密情報を取り出す(情報漏えい)

特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)

傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)

コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

セキュリティ機能

セキュリティ機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。不正アクセスを防ぐために、暗号化機能(WEP、WPA™)を設定されることを強くおすすめします。また、お使いの無線LANアクセスポイントで、登録したMACアドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。公共の無線LANアクセスポイントなどで使用される場合は、「Windowsファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

青少年がおられる家庭の皆様へ～ 重要なお知らせとお願い

インターネットの発展によって、世界中の人と容易にメールのやりとりをしたり、個人や企業が開設しているインターネット上のサイトを活用したりすることによって、必要なときに必要とする情報を瞬時に検索することが可能となっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害情報という負の側面があります。特に青少年にとって、下記のようなインターネット上のサイトは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。

- アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）
- 出会い系サイト
- 暴力残虐画像を集めたサイト
- 他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- 犯罪を助長するようなサイト
- 毒物や麻薬情報を載せたサイト

アダルトサイトが青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開を止めさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開を止めさせることはできません。

有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信者の側で閲覧の制御を行う技術的手段で、100%万全ではありませんが、多くの有害な情報へのアクセスを自動的に制限することができる有効な手段です。特に青少年がおられるご家庭では、ご自宅のパソコンにフィルタリング機能を持つソフトウェアを購入しインストールするか、インターネット事業者のフィルタリング・サービスの利用をご検討されることをおすすめします。

「フィルタリング」は、ソフトウェアあるいはサービス事業者によって、「有害サイトブロック」「Webフィルタ」「インターネット利用管理」などと表現される場合もあり、それぞれ、機能、利用条件が異なります。ソフトウェア提供会社あるいは、お客様が契約されているインターネット事業者に、事前にご確認されることをおすすめします。

【参考資料】

- 一般社団法人電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料
「パソコンサポートとつきあう方法」
<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=372&ca=14>

本製品やアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、本製品、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のお願い

当社では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をお願いしております。

東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口や東芝PC電話サポート予約サービスのご利用にあたっては、事前に東芝ID（TID）に登録していただくことが必要です。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。

https://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

1 インターネットに接続して、東芝ID（TID）を登録する

インターネットに接続して、次の手順で東芝ID（TID）を登録してください。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

参照 インターネット接続「3章 インターネットやネットワークに接続する」



- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [東芝お客様登録] をクリックする

3 [新規会員登録] をクリックする

登録用のホームページが表示されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。



- 次のURLから、登録用のホームページにアクセスすることもできます。
登録用ホームページ： <http://toshibadirect.jp/room1048/>
商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

2 インターネットをご利用されていない場合

インターネットをご利用されていないお客様の東芝ID（TID）登録につきましては、東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口へご相談ください。

本製品を捨てたり人に譲ったりする前に、お客様登録を削除したり、SSDの内容を消去してください。

指紋データを登録したときは、データを消去することをおすすめします。

参照 ▶ 「7章 **5** - **4** - **2** - 本製品を捨てるまたは人に譲る場合」

本製品の廃棄・譲渡時のSSD上のデータ消去に関するご注意

最近、Windows搭載製品は、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらの製品に使われているSSDなどの記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、製品を譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。

ところが、このSSDに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ◆ データを「ごみ箱」に捨てる
- ◆ 「削除」操作を行う
- ◆ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ◆ ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ◆ 添付のリカバリーDVD-ROM、または作成したリカバリーメディアを使い、購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらの作業では、SSD上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、SSD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、SSD内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、SSDに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有料）を利用することをおすすめします。

なお、SSD上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく本製品を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認をする必要があります。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL <http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm>

1 TPMの内容を消去する

* TPM搭載モデルのみ

TPMを使用している場合、SSDだけでなく、TPM内部のデータを削除する必要があります。登録情報など、セキュリティに関する重要な情報が含まれるため、必ずデータを削除してください。

2 本体について

本体の廃棄／リサイクルについては、『取扱説明書 2章 **4** サービス&サポートのご案内』をご覧ください。

3 バッテリーパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリーパックは廃棄しないで、各自治体の条例または規制に従ってリサイクルするか、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。

その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。



Li-ion



Ni-MH

【バッテリーパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先】

一般社団法人 JBRC

TEL : 03-6403-5673

ホームページ : <http://www.jbrc.com>

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。搭載されている機能やアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

1 本製品を使用する場所について

人間にとって住みやすい温度と湿度の環境が、本製品にも最適な環境です。次の点に注意して置き場所、使う場所を決めてください。

- 安定した場所に置きましょう。
不安定な場所に置くと、本製品が落ちたり倒れたりするおそれがあり、故障やけがにつながります。
- 温度や湿度が高いところは避けましょう。
暖房や加湿器の送風が直接あたる場所はよくありません。
- 強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。
磁石はもちろん、スピーカー、テレビの近くは磁気の影響を受けます。磁気ブレスレットなども本製品を使用するときにははずすようにしましょう。
- ラジオやテレビの近くで使用しないでください。
ラジオやテレビの受信障害を引き起こすことがあります。
- 無線通信装置から離してください。
携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコンなども無線通信装置の一種です。

2 SSDについて

操作にあたって

- 本製品を激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- SSDへのアクセス中は、本製品を動かしたりしないでください。SSDが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- SSDに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、SSD、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- 本製品を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。

3 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線通信の範囲を最大限有効にするために、次のことを守ってください。
 - ・ 無線LANアクセスポイントと本体の間を、金属板などで遮へいしないでください。
 - ・ 無線通信アンテナの周囲に、本や厚い紙の束などの障害物を置かないでください。
 - ・ 無線通信アンテナの周囲を、金属製のケースで覆わないでください。
 - ・ 無線通信アンテナの周囲に、ラベルを貼り付けしないでください。
 - ・ 無線LANで通信中は、無線通信アンテナ部分に極力触れないでください。
- Bluetooth®と無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth®、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、次の説明を確認してください。

参照▶「付録 12 無線LAN/Bluetooth®について」

- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

4 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
 - ・ ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ず本製品の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
 - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
 - ・ ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
 - ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
 - ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
 - ・ 本書および各種説明書で説明している場所のネジ以外は、ゆるめたり、取りはずしたりしないでください。
 - ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
 - ・ 本製品のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
 - ・ ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、本製品のコネクタに接続したあと、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
 - ・ 本製品のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB 対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてから本製品に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべての USB 対応機器の動作を保証するものではありません。
- USB 対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、本製品を再起動してください。

□ USB 接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB 接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、一部の映像を再生するアプリケーションなどが動作しなくなる場合があります。

これらのアプリケーションを使用される場合は、USB 接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

□ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USB フラッシュメモリや USB 接続のハードディスクドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドセットやヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・ 本製品の電源を入れる／切るとき
 - ・ ヘッドセットやヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

Bluetooth® について

- 本製品は、すべての Bluetooth® 対応機器との接続動作を保証するものではありません。
- 本製品の Bluetooth® 機能を使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

5 ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイとの接続を確認したものではありません。詳しくは東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口へお問い合わせください。
- 周囲の電波状況によっては、テレビまたは外部ディスプレイとの接続に失敗したり、途中で接続が切れたりすることがあります。また、テレビまたは外部ディスプレイの映像が乱れることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイと正常に接続できない場合は、本製品とテレビまたは外部ディスプレイ双方を再起動してください。
- 本製品は、スリープ中でもテレビまたは外部ディスプレイとの接続が解除されません。バッテリーの消耗を防ぐため、本機能を使用しないときはテレビまたは外部ディスプレイとの接続を切断してください。

6 指紋認証について


指紋認証の操作にあたって

指紋センサーは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサー表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取り扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
 - ・ 指紋センサー表面をつめなどの硬いものでこすったりひっかいたりする
 - ・ 指紋センサー表面を強く押す
 - ・ めれた手で指紋センサー表面を触る
指紋センサーの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
 - ・ 化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサー表面を触る
砂などの小さい物でも、指紋センサーを傷つける場合があります。
 - ・ 指紋センサー表面にシールなどをはる
 - ・ 指紋センサー表面に鉛筆やボールペンなどで書く
 - ・ 指紋センサー表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサーをご使用になるときは、次の点にご注意ください。
 - ・ 手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
 - ・ 金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサーの故障原因になります。
 - ・ クリーナークロスなどの柔らかい布でセンサーの汚れをふき取る
このとき、洗剤は使用しないでください。
 - ・ 指と指紋センサーが横から見て平行になるように指を置く

- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
 - ・ ぬれている
 - ・ けがをしている
 - ・ ふやけている
 - ・ 荒れている
 - ・ 汚れている指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
 - ・ 乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
 - ・ 指紋センサーの表面が汚れていないか確認する汚れている場合は、クリーナークロスなどの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサー表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
 - ・ 指の状態を確認する傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、ほかの指での再登録をおすすめします。
 - ・ 指の置きかたに注意する
- その他
 - ・ 2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録し直すか、ほかの指を登録してください。
 - ・ 指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
 - ・ 指紋認証機能は、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。

Windows パスワードの設定について

- 指紋認証を使用するには、あらかじめWindows パスワードとPINの設定が必要な場合があります。Windows パスワードとPINの設定は、「サインイン オプション」で行います。Windows パスワードとPINがわからなくなった場合、本製品の管理者アカウントで設定したユーザーアカウントがほかがあれば、そのアカウントでサインインしてパスワードの再登録ができます。管理者アカウントで設定したほかのユーザーアカウントがない場合は、リカバリーをしてください。リカバリーをすると、購入したあとに作成したデータなどは、すべて消失します。サインイン オプションについては、タスクバーの検索ボックス () で、「サインイン オプション」と入力して検索してください。

指紋認証のパスワード入力について

- 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

7 TPMについて

TPMの操作にあたって

- 本製品を修理・保守に出した場合、本製品内のデータは保証いたしません。TPMを使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、バックアップしておいてください。バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、当社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されているTPMに障害がなくてもメイン基板が交換される場合があります。
- TPMでは、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 管理者権限を持たないユーザーがBIOSセットアップのTPMに関する項目を操作できないように設定することをおすすめします。

8 USB Type-C™ アダプターの取り扱いについて

- USB Type-C™ アダプターのHDMI® 出力端子とRGBコネクタを同時に使用することはできません。
- ほかのUSB Type-C™ アダプターとの連結接続での使用はできません。
- USBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大な場合、安全性確保のためにUSB Type-C™ アダプターの動作を停止させることがあります。
この場合、本製品からUSB Type-C™ アダプターを抜き、再度差し込むことで復帰します。使用電流が大きな外部機器を使用する場合は、本製品に電源コードとACアダプターを接続して使用してください。
- 本製品のバッテリー充電量が著しく低下しているときに、USB Type-C™ アダプターを接続しても正常に動作しない場合があります。
本製品のバッテリーを30分程度充電してからUSB Type-C™ アダプターを接続し直してください。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示を保証するものではありません。テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示したときに、画面の周りに黒い帯が表示され、画面がテレビまたは外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。
その場合は『テレビに付属している説明書』または『外部ディスプレイに付属している説明書』を参照して、テレビまたは外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

USB 対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてから USB Type-C™ アダプターに接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべての USB 対応機器の動作を保証するものではありません。
- USB 対応機器を接続したまま本製品をスリープまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、本製品を再起動してください。

□ USB 接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB 接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、一部の映像を再生するアプリケーションが動作しなくなることがあります。
これらのアプリケーションを使用される場合は、USB 接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

□ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USB フラッシュメモリや USB 接続のハードディスクドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

LAN ケーブルの使用にあたって

- LAN ケーブルは市販のものを使用してください。
- LAN ケーブルを USB Type-C™ アダプターの LAN コネクタに接続した状態で、LAN ケーブルを引っ張ったり、USB Type-C™ アダプターの移動をしないでください。LAN コネクタが破損するおそれがあります。
- LAN インターフェースを使用するときは、エンハンストカテゴリ 6（CAT6e）以上のケーブルを使用してください。

6

記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 microSD メモリカードを使うにあたって

1 microSD メモリカードの操作にあたって

- microSD メモリカードにアクセス中は、電源を切ったり、microSD メモリカードを取り出したり、本製品を動かしたりしないでください。データやmicroSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- microSD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、本製品の動作が不安定になったり、microSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、microSD メモリカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- microSD メモリカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- microSD メモリカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、microSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- 本製品を持ち運ぶときは、必ずSD カードスロットからmicroSD メモリカードを取り出してください。SD カードスロットやmicroSD メモリカードが破損するおそれがあります。

2 microSD メモリカードを使う前に

- すべてのmicroSDメモリカードの動作を保証するものではありません。
- microSDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- microSDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

microSDメモリカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
Windows上（エクスプローラー）でmicroSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのmicroSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したmicroSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（microSDメモリカード、USBフラッシュメモリなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合がありますので、十分に確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

記録メディアへの書き込み、本体のSSDへの書き出しを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込み/書き出しに失敗するおそれがあります。また、本製品へのショックなど本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込み/書き出しに失敗することがあります。

■書き込み/書き出しを行うにあたって

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを使用して本製品を電源コンセントに接続してご使用ください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、電源オフ/スリープ/休止状態/再起動を実行しないでください。
- ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度の変更など、本製品の操作は行わないでください。
- microSDメモ리카ードのセット/取り出しや、周辺機器の取り付け/取りはずしを行わないでください。

参照 ▶ 「2章 本製品の基本操作を覚えよう」

参照 ▶ 「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- 本製品から、携帯電話およびほかの無線通信装置を離してください。
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ 音楽や映像の再生アプリケーション
 - ・ スクリーンセーバー
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては動作の不安定やデータの破損の原因となるので、使用しないことを推奨します。
- microSDメモ리카ード、USBフラッシュメモリ、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体のSSD以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体のSSDに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体のSSDに保存してから書き込みを行ってください。
- 本製品に衝撃や振動を与えないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 書き込みに失敗した記録メディアの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、記録メディアに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

8

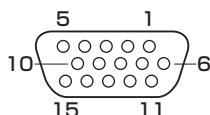
USB Type-C™ アダプターの インターフェースの仕様

* USB Type-C™ アダプター付属モデルのみ

1 RGB インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	Reserved	予約	
5	GND	グラウンド	
6	GND	グラウンド	
7	GND	グラウンド	
8	GND	グラウンド	
9	+5V	電源	
10	GND	グラウンド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	シリアルデータ信号	I/O
13	HSYNC	水平同期信号	0
14	VSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	シリアルクロック信号	0

コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号方向 (I) : USB Type-C™ アダプターへの入力
 信号方向 (O) : USB Type-C™ アダプターからの出力

9

USB Type-C™アダプターの仕様

* USB Type-C™アダプター付属モデルのみ

製品名	USB Type-C™アダプター
外形寸法（突起部含まず）	約122.0（幅）×44.5（奥行）×21.0（高さ）mm
質量	約110g

瞬時電圧低下について

この装置は、一般社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

FCC Information (**FCC**) と EU Declaration of conformity (**CE**) のマークが本体背面に表示されている場合は、各規格に対応しています。

「FCC information」について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's Universal Serial Bus (USB 3.0) port, USB Type-C™ port and Headphone/Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
5241 California Avenue, Suite 100
Irvine, California, USA 92617

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth® Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

■ Wireless LAN

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user's manual for the details regarding antenna location.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

www.hc-sc.gc.ca/

■ Bluetooth®

The radiated output power of the Bluetooth® Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth® Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper/lower edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth® has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

www.hc-sc.gc.ca/

EU Declaration of Conformityについて



This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.

Responsible for CE-Marking is TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site <http://epps.toshiba-teg.com> on the Internet.

CE compliance

Hereby, Toshiba Europe GmbH declares that the model(s) described in this manual is/are in compliance with Directive 2014/53/EU.

The full text of the EU declaration of conformity is available at the following internet address: <https://epps.toshiba-teg.com/>

This product is labeled with the CE Mark in accordance with the essential requirements and other relevant provisions of the applicable European Directives, notably Radio Equipment Directive (2014/53/EU), RoHS Directive 2011/65/EU, Ecodesign Directive 2009/125/EC(ErP) and the related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the applicable EMC (Electromagnetic Compatibility) standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid in general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”.

TOSHIBA do not recommend the use of this product in working environments other than the above listed working environment.

For example, the following environments are not verified:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical applications (according to Medical Device Directive)
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not verified/recommended are not the responsibility of TOSHIBA.


The consequences of the use of this product in non-verified working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non verified working environments before use. In the case of vehicles or aircraft, the manufacturer or airline operator respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

Restrictions for Use of 2400.0-2483.5MHz Frequencies in Europe

Azerbaijan:	Limited implementation	No license needed if used indoor and power not exceeding 30mW (14.77dBm).
Italy: 	Implemented	The public use is subject to general authorisation by the respective service provider.
Russian Federation:	Limited implementation	<ul style="list-style-type: none"> ■ Using SRD (Short Range Device) with FHSS (Frequency-Hopping Spread Spectrum) modulation. <ol style="list-style-type: none"> 1. Maximum 2.5mW (4dBm) EIRP (Equivalent Isotropically Radiated Power) is permitted to use. 2. Maximum 100mW (20dBm) EIRP is permitted to use with the following conditions: Permitted to use SRD for outdoor applications without restriction on installation height only for purposes of gathering telemetry information for automated monitoring and resources accounting systems. Permitted to use SRD for other purposes for outdoor applications only when the installation height is not exceeding 10m above the ground surface. 3. Maximum 100mW (20dBm) EIRP. Indoor applications is permitted to use. ■ Using SRD with DSSS (Direct Sequence Spread Spectrum) and other than FHSS wideband modulation. <ol style="list-style-type: none"> 1. Maximum EIRP density is 2mW/MHz. Maximum 100mW (20dBm) EIRP is permitted to use. 2. Maximum EIRP density is 20mW/MHz. Maximum 100mW (20dBm) EIRP is permitted to use with the following condition: It is permitted to use SRD for outdoor applications only for purposes of gathering telemetry information for automated monitoring and resources accounting systems or security systems. 3. Maximum EIRP density is 10mW/MHz. Maximum 100mW (20dBm) EIRP. Indoor applications is permitted to use.
Ukraine:	Limited implementation	EIRP =100mW (20dBm) with built-in antenna's maximum gain is 6dBi.

Restrictions for Use of 5725-5875MHz Frequencies in Europe

Russian Federation:	Limited implementation	When duty cycle is 0.1% or using LBT (Listen Before Talk) technology, antenna height should not exceed 5m, with maximum 25mW (13.98dBm) EIRP is permitted to use.
---------------------	------------------------	---

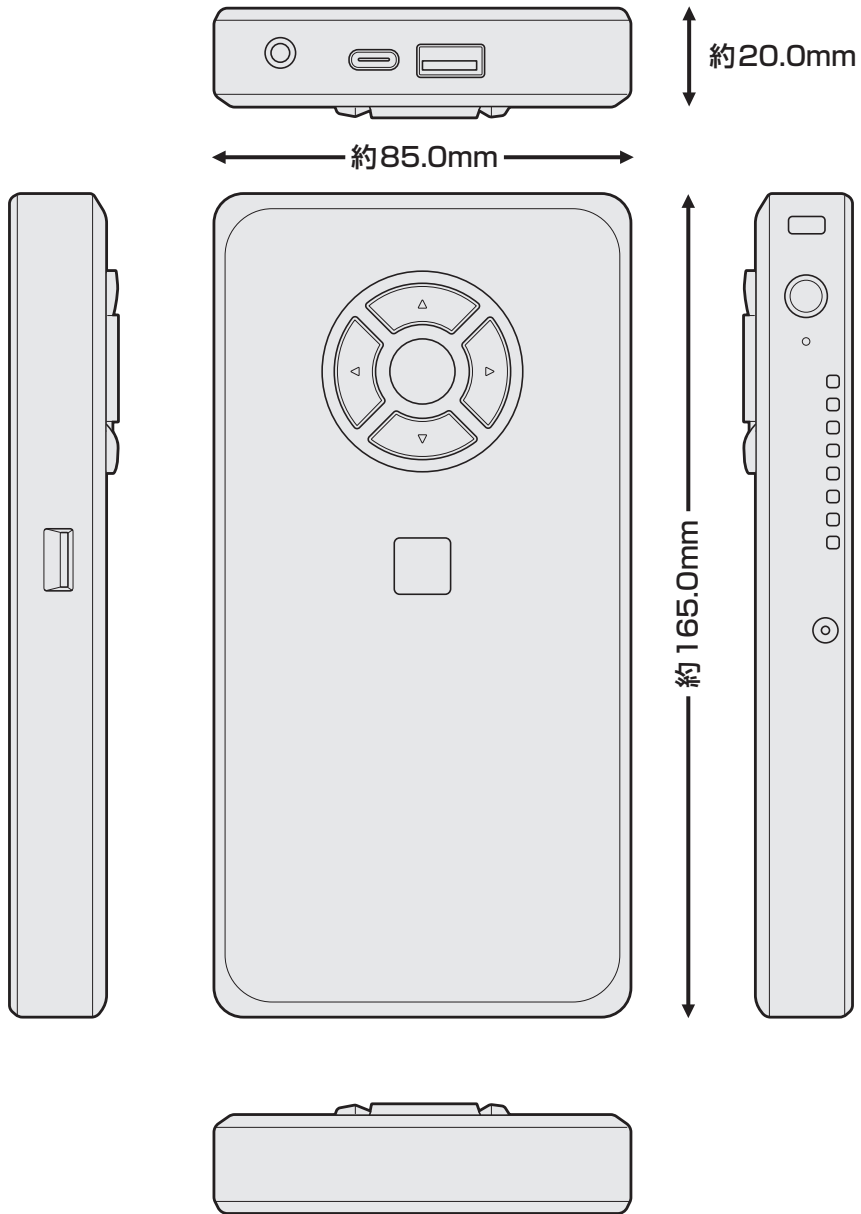
Software Version and Maximum Power Output of the Wireless Module

Europe: Models 8260D2W	
Software Version	Intel® PROSet/Wireless WiFi Software 19.x and previous versions
Maximum Power Output	
(2400 - 2483.5 MHz) IEEE802.11 b/g/n mode	Maximum 100mW (20dBm) EIRP
(2400 - 2483.5 MHz) BLE / Bluetooth	Maximum 10mW (10dBm) EIRP
(5150 - 5725 MHz) IEEE802.11 a/n/ac mode	Maximum 200mW (23dBm) EIRP The low band 5.15 - 5.35GHz is for indoor use only.
(5745 - 5875 MHz) IEEE802.11 a/n/ac mode	Maximum 25mW (13.98dBm) EIRP

11

外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



- * 無線LAN機能については、無線LAN機能搭載モデルのみ対象となります。
- * 5GHzの無線LANについては、IEEE802.11a、IEEE802.11acのいずれかをサポートしているモデルのみ対象となります。
- * Bluetooth[®]機能については、Bluetooth[®]機能搭載モデルのみ対象となります。

1 無線LANの規格

無線LAN（無線LANモジュール）には通信の通信速度や使用している周波数帯によって、複数の規格が存在します。

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n、IEEE802.11acのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANが搭載されています。

本製品が対応している規格については、「本節 **6** 無線LANモジュールの確認」を確認してください。

本書では、搭載された無線LANの種類によって説明が異なる項目があります。

■ 無線LANの仕様

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n, IEEE802.11ac	5GHz (5150-5350MHz、および5470-5725MHz)
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz (2400-2483MHz)
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g, IEEE802.11n, IEEE802.11ac	直交周波数分割多重方式 (OFDM方式)
	IEEE802.11b	直接拡散方式 (DSSS方式)

無線LANアクセスポイントや無線機器と通信を行うには、どちらも同じ規格に準拠している必要があります。

2 無線LANのサポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャンネルは、国/地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。

5GHz帯無線LANは、W52/W53/W56チャンネルをサポートしています。

IEEE802.11b/g/n			
IEEE802.11a/n/ac			
J52	W52	W53	W56

■ 無線IEEE802.11 チャンネルセット

- 5GHz帯：5150-5350MHz および、5470-5725MHz
（IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11acの場合）

	チャンネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャンネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャンネルに自動的に設定されます。

メモ

- W52、W53は電波法令により屋外で使用することはできません。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13、Ch36、Ch40、Ch44、Ch48、Ch52、Ch56、Ch60、Ch64、Ch100、Ch104、Ch108、Ch112、Ch116、Ch120、Ch124、Ch128、Ch132、Ch136、Ch140で使用できます。

- 2.4GHz帯：2400-2483MHz (IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合)

チャンネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457
11	2462
12	2467
13	2472



メモ

- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

3 Bluetooth® の仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth® Specification Ver.4.2 準拠
	無線周波数帯	2.4GHz (2402～2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK

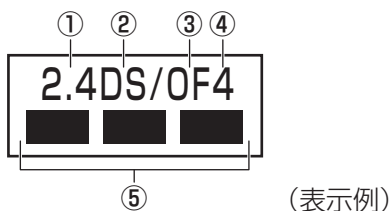
4 使用上のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局および移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

この周波数帯では電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

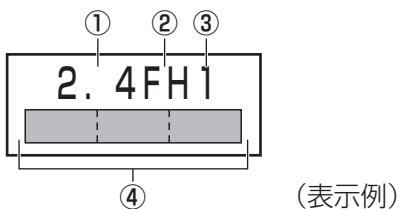
1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

無線LAN



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- ③ OF : 変調方式がOFDM方式であることを示す。
- ④ 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- ⑤ ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

Bluetooth



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- ③ 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- ④ ■■■■■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口へお問い合わせください。

5 無線特性

無線LANおよびBluetooth®の無線特性は、製品を購入した国/地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国/地域の無線規制の対象になります。国/地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHzおよび2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国/地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。



メモ



- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

6 無線LANモジュールの確認

本製品に搭載された無線LANモジュールの種類は、「デバイス マネージャー」を使って確認できます。

1 [スタート] ボタン () をクリックする

2 [Windows システム ツール] → [コントロールパネル] をクリックする

3 [ ハードウェアとサウンド] → [ デバイス マネージャー] をクリックする

[デバイス マネージャー] 画面が表示されます。

4 [ネットワーク アダプター] をダブルクリックする

アダプター名が表示されます。

5 アダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、次のようになります。

- 「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260」の場合
IEEE802.11a (W52/W53/W56)、IEEE802.11b、IEEE802.11g、
IEEE802.11nおよびIEEE802.11ac (W52/W53/W56) に対応したモジュールです。
また、Bluetooth® 機能も搭載しています (Bluetooth® ワイヤレステクノロジー Ver4.2に対応しています)。



- WPA™/WPA2™対応、WEP対応、AES対応、TKIP対応。

7 機器認証について

本製品は、電波法および電気通信事業法の認証を受けた無線設備である場合と、認証を受けた無線設備を搭載している場合があります。

いずれの場合も本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の行為は電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

- 無線設備として認証を受けている場合：本製品を分解・改造して使用すること
- 認証を受けた無線設備を搭載している場合：
 - 組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用すること
(本製品に組み込まれた無線設備は、本製品に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しているため)

認証番号などに関する情報は、「dynabook.com」をご覧ください。

8 お知らせ

無線製品の相互運用性

■無線LAN

本製品に搭載されている無線LANは、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs (Revision a/b/g/n/ac)

■Bluetooth®

本製品に搭載されているBluetooth®は、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth® Special Interest Group 策定のBluetooth® Specification Ver.4.2
- Bluetooth® Special Interest Groupの定義するBluetooth® ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

メモ

- 本製品はすべてのBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) Bluetooth® Version 1.0B 仕様のBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth®と無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth®、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

健康への影響

本製品に搭載されている無線LANおよびBluetooth®は、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルにおさえられています。

本製品に搭載されている無線LANおよびBluetooth®の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと考えております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が無線LANおよびBluetooth®の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で無線LANおよびBluetooth®を用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、無線通信機能をONにする前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に搭載されている無線LANのインストールと使用に際しては、必ず製品付属している説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

9 使用できる国/地域について

海外で無線通信機能を使用する場合は、使用される国/地域の無線規格を取得している必要があります。

無線規格を取得している国/地域に関する情報は、「dynabook.com」をご覧ください。

また、無線規格を取得していない国/地域では、本製品の無線通信機能をOFFにしてください。

参照▶ 無線通信機能のOFFについて「3章 **2** 無線LANを使う」

OpenSSLについて

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

FreeTypeについて

The FreeType Project LICENSE

2006-Jan-27

Copyright 1996-2002, 2006 by
David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg

□ Introduction

The FreeType Project is distributed in several archive packages; some of them may contain, in addition to the FreeType font engine, various tools and contributions which rely on, or relate to, the FreeType Project.

This license applies to all files found in such packages, and which do not fall under their own explicit license. The license affects thus the FreeType font engine, the test programs, documentation and makefiles, at the very least.

This license was inspired by the BSD, Artistic, and IJG (Independent JPEG Group) licenses, which all encourage inclusion and use of free software in commercial and freeware products alike. As a consequence, its main points are that:

- We don't promise that this software works. However, we will be interested in any kind of bug reports. ('as is' distribution)
- You can use this software for whatever you want, in parts or full form, without having to pay us. ('royalty-free' usage)
- You may not pretend that you wrote this software. If you use it, or only parts of it, in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you have used the FreeType code. ('credits')

We specifically permit and encourage the inclusion of this software, with or without modifications, in commercial products.

We disclaim all warranties covering The FreeType Project and assume no liability related to The FreeType Project.

Finally, many people asked us for a preferred form for a credit/disclaimer to use in compliance with this license. We thus encourage you to use the following text:

Portions of this software are copyright (C)<year> The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

Please replace <year> with the value from the FreeType version you actually use.

☐ Legal Terms

0. Definitions

Throughout this license, the terms `package`, `FreeType Project`, and `FreeType archive` refer to the set of files originally distributed by the authors (David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg) as the `FreeType Project`, be they named as alpha, beta or final release.

`You` refers to the licensee, or person using the project, where `using` is a generic term including compiling the project's source code as well as linking it to form a `program` or `executable`.

This program is referred to as `a program using the FreeType engine`.

This license applies to all files distributed in the original FreeType Project, including all source code, binaries and documentation, unless otherwise stated in the file in its original, unmodified form as distributed in the original archive.

If you are unsure whether or not a particular file is covered by this license, you must contact us to verify this.

The FreeType Project is copyright (C) 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved except as specified below.

1. No Warranty

THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED `AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

2. Redistribution

This license grants a worldwide, royalty-free, perpetual and irrevocable right and license to use, execute, perform, compile, display, copy, create derivative works of, distribute and sublicense the FreeType Project (in both source and object code forms) and derivative works thereof for any purpose; and to authorize others to exercise some or all of the rights granted herein, subject to the following conditions:

- Redistribution of source code must retain this license file (`FTL.TXT`) unaltered; any additions, deletions or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation. The copyright notices of the unaltered, original files must be preserved in all copies of source files.
- Redistribution in binary form must provide a disclaimer that states that the software is based in part of the work of the FreeType Team, in the distribution documentation. We also encourage you to put an URL to the FreeType web page in your documentation, though this isn't mandatory.

These conditions apply to any software derived from or based on the FreeType Project, not just the unmodified files. If you use our work, you must acknowledge us. However, no fee need be paid to us.

3. Advertising

Neither the FreeType authors and contributors nor you shall use the name of the other for commercial, advertising, or promotional purposes without specific prior written permission.

We suggest, but do not require, that you use one or more of the following phrases to refer to this software in your documentation or advertising materials: `FreeType Project`, `FreeType Engine`, `FreeType library`, or `FreeType Distribution`.

As you have not signed this license, you are not required to accept it. However, as the FreeType Project is copyrighted material, only this license, or another one contracted with the authors, grants you the right to use, distribute, and modify it.

Therefore, by using, distributing, or modifying the FreeType Project, you indicate that you understand and accept all the terms of this license.

4. Contacts

There are two mailing lists related to FreeType:

- freetype@nongnu.org

Discusses general use and applications of FreeType, as well as future and wanted additions to the library and distribution.

If you are looking for support, start in this list if you haven't found anything to help you in the documentation.

- freetype-devel@nongnu.org

Discusses bugs, as well as engine internals, design issues, specific licenses, porting, etc.

Our home page can be found at

<http://www.freetype.org>

14 リカバリーチェックシート

本製品のリカバリーを行う際は、次の説明をお読みになり、消去されるデータやアプリケーションをご確認のうえ、順番に作業を行ってください。

1 リカバリーする前に、次の方法を実行してみる

チェック欄	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する
<input checked="" type="checkbox"/>	周辺機器（プリンターなど）をすべて取りはずす
<input checked="" type="checkbox"/>	『取扱説明書 2章 1 トラブルを解消するまでの流れ』をご覧ください、ほかのトラブル解消方法を探す
<input checked="" type="checkbox"/>	「システムの復元」を実行して、本製品を以前の状態に復元する

2 リカバリーする前にすること

チェック欄	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	① 準備するもの リカバリーの手順と「リカバリーチェックシート」（本シート）を印刷したもの
<input checked="" type="checkbox"/>	リカバリーメディア（*メディアからリカバリーする場合のみ） リカバリーDVD-ROM（*付属しているモデルのみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	② 必要なデータのバックアップをとる ● [ドキュメント]、[ピクチャー]、デスクトップ上などのデータ ● インターネットの [お気に入り] のデータ ● メール送受信データ、メールアドレス ● その他、本製品を購入後に作成したデータ（フォルダーやファイル）
<input checked="" type="checkbox"/>	③ 指紋データをすべて削除する（*指紋センサー搭載モデルのみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	④ アプリケーションのセットアップ用のメディアを用意する ● 本製品を購入後にインストールしたアプリケーションのメディア
<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 各種設定を確認する ウイルスチェックソフトの設定など
<input checked="" type="checkbox"/>	インターネット、Windows サインイン時のアカウント名などの設定
<input checked="" type="checkbox"/>	⑥ 無線通信機能がONであるかを確認する

3 リカバリーの実行と、その後にする

チェック欄	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	① リカバリーを行う（*リカバリー後は初期セットアップが必要）
<input checked="" type="checkbox"/>	② 周辺機器（プリンターなど）を取り付けて、設定する
<input checked="" type="checkbox"/>	③ ウイルスチェックソフトの利用を開始する
<input checked="" type="checkbox"/>	④ インターネットを設定する
<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ ウイルスチェックソフトのパターンファイルを更新する、Windows Updateを行う、東芝サービスステーションでソフトウェアのアップデートを行う
<input checked="" type="checkbox"/>	⑥ メールを設定する
<input checked="" type="checkbox"/>	⑦ アプリケーションのインストールや設定を行う
<input checked="" type="checkbox"/>	⑧ バックアップをとったデータを復元する